

平成29年6月9日

1. 出席議員

議長	杉原豊喜	副議長	吉川里己
1番	豊村貴司	2番	猪村利恵子
3番	朝長勇	4番	山口等
6番	松尾陽輔	7番	池田大生
8番	石丸定	9番	石橋敏伸
10番	上田雄一	11番	山口裕子
12番	古川盛義	14番	山崎鉄好
15番	末藤正幸	16番	宮本栄八
17番	吉原武藤	18番	山口昌宏
19番	川原千秋	20番	牟田勝浩
21番	松尾初秋	23番	江原一雄
24番	谷口攝久		

2. 欠席議員

なし

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局長	末藤彰彦
次長	江上新治
議事係長	吉永和彦
議事係員	田中弘一

4. 地方自治法第121条により出席した者

市		長	小	松		政
副	市	長	北	川	政	次
副	市	長	浅	井	雅	司
教	育	長	浦	郷		究
総	務	部	水	町	直	久
企	画	部	古	賀	龍	一 郎
営	業	部	千	賀	耕	司
営	業	部	小	田		修
営	業	部	松	尾	和	久
福	祉	部	岩	瀬		清
福	祉	部	井	上	将	治
こ	ど	も	松	尾		徹
こ	ど	も	末	藤	勇	二
ま	ち	づ	古	川	清	茂
山	内	支	神	宮	一	文
北	方	支	山	口	泰	光
会	計	管	牟	田	由	紀 子
上	下	水	今	福		剛
総	務	課	川	久	保	幸
財	政	課	山	崎	正	和
企	画	政	松	尾	謙	一

議 事 日 程 第 3 号

6月9日（金）9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

平成29年6月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
5	10 上 田 雄 一	1. ～武雄市の今後の方向性について～ 1)子育て・教育について 2)まちづくりについて
6	16 宮 本 栄 八	1. 文化体育館・グラウンド整備 2. 市営住宅整備の進め方 3. 体育館等の照明 LED化 4. 武雄バイパス連結道の整備 5. 市役所移転（現庁舎・まちなか広場） 6. 観光拠点整備（駅・松原交差点） 7. 通学路整備（武雄小・御船が丘小） 8. はたらき方改革（同一労働・同一賃金）
7	1 豊 村 貴 司	1. 西九州北部地域連携中枢都市圏構想について 2. 公園整備について 3. 保養村について 4. スポーツ政策について
8	4 山 口 等	1. 交通安全対策について 1)交通事故防止について 2)「ゾーン30」について 2. 子育て支援について 1)放課後児童クラブについて

開 議 9 時

○議長（杉原豊喜君）

皆さんおはようございます。前日に引き続き本日の会議を開きます。

それでは日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を続けます。

日程から見まして、本日は4番山口等議員の質問まで終わりたいと思います。

それでは、10番上田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんおはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、これより10番上田雄一の一般質問を始めさせていただきます。

今回も武雄市の今後の方向性ということで通告をさせていただいています。よろしくお願いたします。

では、早速質問に入りたいと思います。

今回、子育て・教育についてと、まちづくりについてで2点通告をさせていただいております。

武雄市の人口の推移ということで、これは以前、質問でも出した資料ではありますが、このような人口の推移が予測されております。今2017年ですね。5月末現在での人口が今、4万9,411人やったですかね。4万9,411人が5月末現在での人口だということで、これからいくと2015年の予測数値よりは上にはいっておるものの、これと同等の人口減少が進んでいくのかなと思われております。

この表を見ていただくとわかりますけども、これから30年後の人口はもう、およそ1万人が減っているというような状況の予測数値であります。この人口減少を何とかしないといけないうのではなかというのが、一番の私は社会問題と思っております。

NHKオンライングローバルディベートWISDOMによると、出生数と婚姻件数が影響もあるということで、グラフを比較すると確かにそうなのかというような感じの推移になっております。それには、雇用の確保と子育て環境の充実が必要でありまして、さらには教育資金と生活資金のバランスも考えていかないと、この人口減少は歯どめがかからないというような見解が出ておるわけですが、市長にまずお尋ねをいたします。

私自身は、この少子化を何とかしてとめないといけないうのが最大の社会問題ではないかと考えておりますが、市長の見解をお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

おはようございます。先日も合計特殊出生率ですね、昨年の数字が1.44と全国で出ておりました、佐賀県はたしか1.63だったと思います。

昨年生まれた子どもがですね、100万人を切ったということで話題になりまして、やはり私もこの問題非常に重要だと思っております。

少子化による影響としてはですね、やっぱり労働力の減少とか、消費が減少するとか、

あとは、今のこう、社会保障制度の中では負担がふえると。そういった問題がありまして、今の現状の枠組みのままでいけば、非常にこの少子化問題というのは、私は重要な社会問題であるというふうに認識しておりまして、私自身もこの少子化対策に対して、まさに総合的に対策を打っていかねばならないと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

そうですね、市長の今の見解を聞いて、まさしくそうだなと思いました。

それでですね、子育て環境の充実ということで、今回ちょっとテーマに上げておりますけれども、市長の肝いりの政策といいますか、子どもの貧困対策が今、武雄市でもスタートしたところであります。

武雄市子どもの未来応援計画ということで、実行計画をつくられて、実施をされておりますけれども、今現在、貧困対策の新規拡充事業ということで、平成 29 年度の予算からいけば、このような事業が今回、実施されるわけでございます。もう、一つ一つを説明していると長くなりますけれども、29 年度のこの貧困対策新規拡充事業で、総額でおよそ 1,000 万円弱ですね、ということであります。

これもですね、非常に今、社会問題ともいいますか、なっておるわけですけど、今回この、29 年度で 1,000 万円近くの予算を使うことになるわけでありましてけれども、これが今後、やっぱり尻すぼみになったらいかんと思うわけですよ。まあ、始まったばかりでこういことを言うのもなんですよけれども、やはり少子化対策に、これも、一つの一環だと思っておりますので、これが尻すぼみになってもいけないと思うわけですが、やはり財政状況のことを考えると、大幅に拡大していくということもなかなかできないのかなということ、これをトータル的に今後、どのような感じで、持続可能な支援というか、継続していくためには、どのようなビジョンを持っておられるかをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浅井副市長

○浅井副教育長〔登壇〕

おはようございます。継続的な支援について御質問いただきましたけれども、先ほど上げていただいた 6 つの事業、このうち、実は 3 つの事業については国等の事業を、補助金等を活用して、武雄市独自にアレンジして実施しているという状況になっております。

子どもの貧困対策ってまあ、すべての子どもたちが夢と希望を叶える社会、切り開いていける社会をつくっていくためには、継続的な支援っていうのが極めて大事だと思っております。

この 29 年度の事業のように、なるべく国の事業を活用すると、武雄市独自に活用すると

いうやり方を重要な視点だと考えておりますけれども、実際には事業の実施状況を見ながら継続的に続けていけるような事業というのを、実施していきたいと思っております。

一方で、市長初め、子どもの未来を応援する首長連合や市長会等ありますので、そういうものを通じながら、国や県に対して貧困対策についての財政的な支援をしていただけるように要望していきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

今のお話の補足ですけれども、やはり、先ほどありました文科省の補助金を活用するというところで、これはまさに浅井副市長が文科省から来られて、そういったネットワークを十分に活用しているからこそできているものだというふうに思っております。

あともう一つの視点は、今あるものを生かすということで、例えば福祉分野での事業、教育分野での事業、縦割りではなくて、そこをうまく、今あるものを組み合わせるといふ、そういうふうな視点もぜひ盛り込んでいきたいですし、あと、花まる小学校と同じようにですね、やはり地域の皆さんのお力というものを、ぜひ貸していただきたいというふうに思っております。

やっぱり、子どもの貧困問題はお金の面だけでなく、心の貧困だというふうに私、申し上げておりますけれども、やっぱり孤立というところは、非常に大きな問題の一つでありますので、そういうところについては、ぜひ地域の皆様にもですね、例えば、声かけであるとか、普段見てるよというサインを送っていただくだけでも何か変わっていくと思っておりますので、そういったいろんな今あるもの、あるいは地域の皆さんの御協力、こういったものも十分に活用していきたいとそのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

ありがとうございます。

とにかくですね、尻すぼみならんように、私はこの政策自体はですね、やはり必要なものだと思いますので、ネーミングはどうかさせておいてですよ、必要なものだと思いますので、尻すぼみにならんようにとにかく頑張っていたきたいなというのがお願いでございます。

一方、今回、上がっておりますのは、子育て就労両立サポートちゅうことで、病児・病後児保育の施設を開設するのが平成 30 年 4 月って、これはもう市内の保育園の皆さんの御協力によるものであります。これも少子化対策の一環には大きな一因となっておりますとおるわけです。

その中で、その少子化を何とかしていかないといけないというので、今回、多子世帯に

ついでに支援がやはり——私はもう、毎度毎度ここでも言っているところでもあります。

保育料が本来であれば、——保育料が現在、第1子、第2子、第3子というのが同時通園、3人とも一緒に通園している場合に限り第1子は全額保育料必要ですよ、第2子は半分でいいですよ、第3子は無料になりますよという流れがあります。これは、あくまでもこの同時通園の場合っていうことに限るわけですね。

ですから、この第1子の子が卒園をすれば、第2子の子が今度は第1子の計算になりますんで、第2子が第1子に上がります、1子が卒園すれば。この子が全額負担になって第3子が半額負担になる。これやったら私もその、この第1子が卒園すれば、もうお金がいらんようになりますよということであれば、それはそれでいいけど、この子はこの子で卒園すれば学校に行きだして、この学校でまたいろんなお金が必要になってくるわけですね。だから、多子世帯の本当の支援ってというのは、もっとやっぱり考えていかんといかんのやないかなと思うわけです。

今回2016年4月から、年収360万円未満の同一生計世帯に限り、年齢制限が撤廃ということで、年収360万円未満という縛りはありますけれども、この子が卒園をしようが、この子が卒園をしようが、同一生計世帯に限れば、第3子の子はそのまま無料が継続されるという国の制度が適用されておるわけです。私はですね、これこそが本当の多子世帯への支援じゃないかなと思うわけです。

ですので、これをぜひ考えてほしいと、武雄市独自で、今後も多子世帯への支援というのを考えていってほしいなと思うわけですがけれども、これについての見解を求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾こども教育部長

○松尾こども教育部長〔登壇〕

おはようございます。多子世帯への支援策ということで、今後の具体的な取り組みということの御質問でありますけれども、この分については市独自で、現在のところ、これ以上の検討にはまだ至っておりません。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

検討に至っていませんということですがけれども、これまでの市長の答弁でも、多子世帯への支援の必要性ってというのは、これまでも市長に訴えたところでもあります。

ですので、まあ今すぐどうこうというわけじゃありませんけど、国のほうもこういう方向にいつているということで、武雄市も武雄市独自で多子世帯への支援を今後、やっぱり考えていくべきではないかと思うわけですがけれども、改めてこの質問をさせていただきたいと

思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

こちらにありますとおり国も昨年4月から、そして、ことし4月からも順次、多子世帯への支援を拡大しているというふうに認識しております。やはり、そういった子育て世代への支援というのは非常に重要だと。あわせて、先ほど上田議員も御指摘されたとおり、財政の持続可能性というところも、一方で考えていかなければならないと思っております。

多子世帯も含めてですね、そこについては本当に困っている世帯に対しての支援をとにかく優先させて、ここについてはちゃんといろいろ声を聞いて、そして徐々にですけれども、本当に一番しなければならないところを優先して、ぜひ進めていきたいというふうに思っておりますし、まさにこの多子世帯への支援というところで今、このように拡大をしておりますけれども、それでもまだこの部分が本当に足りないということであれば、ぜひその声は聞かせていただいて、それについて、本当に困っているということであれば政策にも反映していきたいと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひですね、多子世帯への支援、子どもが育てやすい武雄市になるように考えていただければなと思っております。

持続可能な子育て支援のためにということで、今回、自民党、若手の国会議員によりまして、経済財政構想小委員会にてということで、議論がスタートしたのがこども保険であります。こども保険も新聞報道でいろいろと報道が徐々にではありますけれども、表に出てきているところであります。

こども保険って何やということで、大きくざくっと説明をすれば、年金、医療、介護には社会保険があるが、喫緊の課題である子育てにはないということで、これが全世代型社会保険の第一歩として、子どもが必要な保育、教育等を受けられないリスクを社会全体で支える仕組みということで、これこそですね、まさに武雄市が取り組む貧困対策の一環にもリンクする部分が大いにあるんじゃないかなと思っております。

こども保険は、社会保険料0.1%から0.5%を財源として、児童手当を増額し、実質の無料化へ導くということで、これに対しての中身自体は、はっきり言いまして、今はまだ賛否が両方あるような状況ですね。

ですので、ネットとかでも、いろんな賛否の声が上がってはおるわけですがけれども、でもですね、実際2020年の実施を目指しているこのこども保険は、これまで子どもの教育に

関して、子育てに関して、こういう議論って今までなかったとですよ。やっとうこういうのが出てきたということで、私はですね、これから始まっていく、協議がスタートした段階のものでありますので、これまでの子育て環境の充実、改善には大きく私は役立っていく可能性を持っているんじゃないかなと思うわけですので、大いに応援したいところであります。

ただ、これもあくまでも議論がスタートした段階でありますので、武雄市としても要望をしたり、提言をしたりして、連携をとっていったこのこども保険がですね、たくさんの人から理解をしてもらい、賛同をいただけるようなものにしていくべきではないかなと思うわけです。

ですので、このこども保険について、さっきの貧困対策の連携でもそうですけど、ぜひ考えて、うまく連携をとっていけんかなと思うわけですけど、これについての市長の見解をお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

私自身、常々申し上げておりますけれども、自治体間の過度な子育て支援サービス合戦というのは、どこかで私は、これは終止符を打たなければならないというふうに思っております。やはり、医療とか介護と同じように、子どもの支援も社会全体で支えるというふうな発想が私は大事だと思っております。

先日、国の骨太方針の案でも幼児教育とか、保育の無償化というのが出されまして、私は、それは基本的に歓迎すべきことだと思っておりますし、そのうちのこども保険、これについても一つの案だと思いますけれども、私はさっき言いました社会全体でという発想自体はですね、私はいいことだというふうに思っております。

期せずして先日、県選出国會議員さんとの意見交換会がありまして、私自身も、このこども保険を取り上げまして、こども保険に仮になったとしても、そこは例えば5,000円を支給するとかいう形ではなくて、しっかりと保育料であるとか、そういったところを下げる、あるいは無料にすると、そういう制度にしてほしいというふうに要望をしてみました。

そういう意味で、こども保険がちょっとどうなるかというのは、これから決まっていくわけですけども、少なくとも幼児教育、保育の無償化、とにかく、これを早期に実現してほしいということについてはですね、さまざまな方面で、私もしっかりと引き続き要望していきたいと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

こども保険の賛否のことが答弁になったところですけど、武雄市としてもぜひ連携はね、

とっていただきたいと思うわけですが、今さっき市長がおっしゃいましたように、幼児教育無償化、無償化をすることで、私は児童手当とか、そういうのをひっくるめてですね、無償化を考えればいいんじゃないかなと思うわけですよ。ですので、さっき出しましたけど、その児童手当の増額とか、そういうふうな話に持っていくのではなくて、今、市長がおっしゃったように、無償化の方向でいけば、私も理想の話になっていくんじゃないかなと思うわけですので、ぜひ今後、今後ですね、その貧困対策も含めて、こども保険の分とぜひ連携をとっていただきたいと思って、次の質問に移りたいと思います。

次に、まちづくりについてであります。

まず、競輪場整備についてでありますけれども、競輪場がリニューアルオープンをしまして、非常にきれいな建物ができ上がっております。

これちょっと、その当時のパース図なんですけど、もうこれができ上がって、バンクができ上がって、あとはこの、今度は周辺の外構なり、公園整備ということになっていくわけですが、常々この席で言うておりますけれども、この公園がですね、やっぱりどうしても人が集まる仕組みをつくらんといかんということで、常々ここで話をさせていただいております。

自転車に特化したところでいけば、こういったBMX場の整備等を考えてほしいということで、常々申し上げてきておりますけれども、そのBMX場については、その後どうなったでしょうか、答弁を願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小田営業部理事

○小田営業部理事〔登壇〕

おはようございます。今、上田議員のほうからBMX場ということで、これについては現在、公園整備、今議会まだ追加議案を予定しております。

その中で現在、長さ95メートル、幅3メートル、BMXのコースを盛り込んだ公園整備の追加議案を予定しておりますので、そのときでもまた御協議願いたいと思います。（発言する者あり）

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

理事、追加議案に予定しているという言葉を使わなければですね、BMXの計画はありますぐらいな感じですけど、追加議案って言われたら事前審査に関わりあうことなので、注意してください。

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

BMXするっていうことですね。ありがとうございます。

続いて、新幹線について移ります。

新幹線については、——国土交通省のホームページです、これが。フリーゲージの云々、不具合対策と今後の技術開発等々がありますけれども、これまでも何度も何度も、質問をさせていただいておりますけれども、来年の初夏、ことしの初夏ですね、初夏をめぐりに取りまとめたいという技術評価委員会の見解がありましたけれども、世間一般的にいけばですね、初夏というのは今だと思うんですよね、初夏といえど。ただまあ、いろんな人の見解では、7月、8月ぐらいも初夏という方もいらっしゃるんですけど、世間一般的にいけば今の時期が初夏じゃないかなと思うわけです。

今現在、この技術評価委員会の見解を武雄市として把握されているのかどうなのか、そこら辺、答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

おはようございます。県やJR九州、鉄道・運輸機構など、関連機関にも確認をしておりますが、初夏の具体的なタイミングや、フリーゲージトレインの検証状況についての情報は現在まで一切入ってきておりません。

引き続き情報収集に努めまして、機を逃さず対応してまいります。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

私もですね、個人的に、県選出の国会議員であられまして、また、その与党プロジェクトチームの検討委員会に所属されている福岡資麿参議院議員のほうにちょっと確認をとったんです。

ですけれども、初夏となっておりますけど、今現在の時点でも、その与党PTの開催の通知等も来ていないということでもありますので、この初夏がいったいつごろになるのか、まあちょっとわからないわけですね。

そしたらまた、今後もやっていきますけど、この結果が出るまではとにかく指をくわえて待っているのかといえど、そうはいかないわけでありまして、今回、嬉野市議会はですね、フル規格に向けた総決起大会の予算まで補正で組んでいるそうです。今議会で議決するかどうかということらしいんですけど、そういう情報をいただいております。

武雄市もですね、この結果が出る前も、出た後も、継続してやっていかないとはいけませんので、ぜひ執行部のほうは対応のほうよろしく願いいたします。

その結果が出る、出ない関係なく、今回、駅舎デザインということで新聞報道等に掲載しております。武雄市の3案、——まあ私個人的にはこっちよりも、こっちの佐賀県出身監

督対決県PRというほうが気になるわけですけど、新幹線の駅舎が、武雄市にこのように3案示されました。同じく、諫早のほうも3案もう出ております。これはもう既に、ホームページ上に掲載がされております。市民の皆さんの御意見をとりとうという流れです。

一方でまた、嬉野市のほうも駅舎デザインが3案提示されております。これが諫早市の3案ですね。こちらが嬉野市の3案。これももう、いずれも全部、諫早市のホームページであり、嬉野市のホームページにもう既に掲載をされておまして、パブリックコメント等を受けようとされております。

一方で武雄市、それから大村——長崎ですか——は、まだホームページ上には載っていないわけでありますので、公開されているのはこちらの分だけです。

諫早市のほうは、このようにアンケートをとろうとされております。諫早市の場合はA案、B案、C案が、どれがいいのかということで、多数決方式みたいな格好でやられているのか、男性、女性の性別と年齢層、それから住所が市内なのか、その他の地域なのかということでアンケートとられております。

一方で嬉野市のほうは、このような3択の選択ではなくて、名前、性別、年齢、住所、個人を特定して、A案、B案、C案について思い思いの意見を記入して、最後にこれはネットで送信をするような格好になっております。

武雄市も今回、このように3案を示されておりますけれども、武雄市は今後、駅舎デザイン決定までどのように進めていかれるのかを答弁お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

関係しています市内の各種団体の代表者からなる武雄市新幹線活用プロジェクトや、市民の代表であります市議会などから御意見をいただきながら、推薦案を絞って、市民の皆様に印象や御意見を伺うこととしております。

期限とされている8月までには、市から鉄道・運輸機構へ推薦案に意見を付して要望をいたしたいと思っております。

この推薦案と付された意見をもとに、鉄道・運輸機構において最終的に決定されることとなっております。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

新幹線活用プロジェクトだったり、議会だったりということで、これが市の独自案を絞ってということですね。どのような絞り方を考えられているのでしょうか。

それとプラスして、諫早市であったり、嬉野市であったりというような感じのパブリッ

クコメントみたいな格好で、市民の皆さんの御意見をとるようなことを考えられているのか、考えられていないのか確認したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

活プロの中におきまして、意見の聴取等を行い、また、新幹線とまちづくり特別委員会とか、産業建設常任委員会等の御意見もお伺いして、推薦案を大体1つに絞りたいと考えております。

それをホームページ等で市民に公表いたしまして、御意見や要望等があったらそれを取りまとめて、本当にその意見がいいのかどうか確認した上で、機構にその意見等を付して提案したいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

3案、もう既に出とうわけですよ。3案出とうとを、議会だったり、新幹線活用プロジェクトだったり1つに絞ったのを、それをホームページ上で意見を受ける。

それ、意味あるとですかね。ホームページ上でこういうふうにするのであればもう、3案出してもいいのかなと。すみません、ちょっと私の頭の中整理しているところですけど。1個に絞ってしまったのを出せば、その賛否をとるということにならんとですかね。

私的には、諫早市のやり方、A案、B案、C案と、どれかを1つを選択されるのではなくて、この嬉野市のやり方を真似——真似するというか参考にしながらA、B、Cにそれぞれに意見をいただくようなやり方のほうがいいのかなと。

これ、もう新聞に出とっけんですね。私、出らんと思っとなんか、出とったけんですね。そいぎ、出てしまったんであれば、多分、人それぞれ好き好きのああとと思うとですよ。

極端に言えば、この線路の上はこれがよか、下はこっちがよかとか、そういう人も出てくっとなんか思うけんがですね、そこら辺がこう全体意見を、もう出てしまったので、集約できるような方法を考えたほうがいいんじゃないかなと思いますけど、改めてお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

的確な答弁をお願いします。古川まちづくり部長

質問者はなかなかわからんて言いよんさあけんが。

○古川まちづくり部長〔登壇〕

市といたしましては、1案に絞ってするというございます。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

わかりました。

1 案に絞っていくということですので、それ慎重に頑張っていたきたいなと思っております。恐らく、もう 3 案出たので、1 案に絞るという作業は大変だと思いますので、ぜひ頑張っていたきたいなと思っております。

続いて、白岩運動公園の整備についてであります。

競技場下の駐車場、これ正式名称は何と言うのかよくわかりませんが、これが白岩運動公園ですね、白岩運動公園の下のところ、階段おりた下の、この一番広い駐車場、この部分ですね。市民の方からですね、この駐車場にトイレがないという話をいただきました。確かにないんですよ。

じゃあ、ここの駐車場の利用勝手がどうなのかといえば、もちろん白岩競技場を使われているときに、ここの駐車場を使われることはたくさんあります。それ以外にも、例えば飛龍窯祭りだったりとか、シャトルバスを使って市で事業をする場合とか、自家用車でこちらに来ていただいて、シャトルバスでここから送迎をする、そういうこともあっております。ほかにも保育園の送迎だったりとか、あとは修学旅行の出発集合場所も、こういうところをよく使われております。集合場所等に使われているにもかかわらず、そこはトイレがないというところと、あと、武雄市の図書館、今度こども図書館も建設が進んでおりますけれども、恐らく、オープン当初は駐車場が足らん、足らん、足らん。まあ、オープン当初だけに限らないかもわかりません。

駐車場の問題というのは、今の図書館もずっとついて回っていくのかなど。そうなった場合に、恐らくここの駐車場を利用してくださいって、こちらが満車になったらここ、満車になったらここ、次ここを使ってくださいというような流れになると思います。そういう場合に、この駐車場にトイレがないと。この駐車場ですね。

昔はですね、ここは木がうっそうと茂っておったので、この中が見えないということで、なかなかいろんな治安の問題等もあったわけですがけれども、今もうきれいに伐採されておりますので、道路を通っているときにも車の状況、中の状況がきれいに見えるわけですね。

そういう理由で当時はなかったのかどうなのかはよくわからないんですけども、ここでいけばですね、この駐車場からいけば、トイレの一番距離的に近いのは階段を上ったすぐのところですよ。次に近いのが、体育館まで歩いて行かないといけないのか、白岩体育館ですね。あと球場のところにもあります。このトイレですね。

上に上がれば、あと何か所かあるわけですがけれども、一番近いところのここのトイレを利用しようにもですね、この 100 段をこえる階段を上っていかんといけないわけですよ。

聞き及ぶところによると、この辺で適当にしよんさあ人もおんさあと。だけんが、ここ

んたいに何とか考えんばいかんばとやなかろうかというような声を市民の方からいただいております。

ぜひですね、この駐車場、そもそもトイレがない経緯がわからないんですけれども、そこについて答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

そもそもの経緯でございますが、白岩運動公園の駐車場として整備をしております。

できた当時、佐賀国体前後ですけど、白岩運動公園の運動施設付近及び白岩体育館等にはそれぞれトイレを設置しております。運動公園を利用される皆様については、そちらのトイレを利用してもらいたいと考えております。

そもそもの経緯が、運動施設として利用される方のトイレということで、おのこの施設に設けているわけでございます。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

そもそもの経緯は運動施設を利用する人のためのトイレということで、例えばこのトイレもこのトイレも、競技場を使う方のトイレであったり、相撲道場を使う方のトイレなり、運動広場、ソフトボール等をされる場合のトイレでありというような考えというのはわかります、それはわかります。

ただですね、今の武雄市の状況からいけば、この駐車場の利用というのは、必ずしも、ここばかりの利用の方に限っているわけではなかわけですよね。恐らくですけど、今度のこども図書館、オープンすれば、今の駐車場ですら足りてないのに、多分ここを使うということになるんじゃないかなと思いますけど、その対策、またイベントを打つとき、イベント打つときシャトルバスに乗るわけですよね、シャトルバスに乗るためにここに集まっとんさあわけですよ。私たちはよかですよ、車でここに来て車をとめて、車で球場のところ行ったり、体育館行ったり、上あがってトイレに行ったりってできますけど、担当課のほうに私も言いました。担当課というか、都市計画ではなくて、スポーツ係、生涯学習課のほうに行きました。高齢者の人たちもがんふうな感じで言いんさったときどがんすつですか。階段ば上あがって行ってくださいって。そがん話のあもんやと思ったたわけですよね。

だけんがぜひ、この駐車場の利用勝手は、武雄市で一番台数も多くとまる駐車場で、いろんなイベントに使うわけですので、ぜひ私はここにトイレを考えるべきではないかなと思うわけですけど、改めて答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

あくまでも、運動施設の管理をしているという立場で申し上げますと、大きなイベント等がございましたら、簡易トイレと言いますか、レンタルのトイレ等をですね、その部署のほうで検討されればと思うのでございます。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

すみません、今の答弁で確認をします。

今までそういうふうに、簡易トイレをですね、ここの駐車場をイベントで使う場合、ここに簡易トイレを置いたことがあるんですか。私、すみません知らなくて。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

その、すみません。そのイベント等の対応部署で検討されればと言いましたので、公園の管理者としては置いておりません。

そういうことでよろしいでしょうか。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

高校総体、アーチェリーか何かがあったとき、ここですよ。競技場でされる場合、そのとき何かあったかもわからんですけど、それ以外の市の事業、イベント等をする場合に、ここにあったことは、私は今まで1回も見たことなかわけですよ。

利用勝手が、ここがとにかく多くて、そういう声が上がっているということで、今回質問をさせていただきました。

まあ、よかです。もう、何もする気なかということやけんが、そういうつもりで、私も声を上げていただいた方にですね、そのように報告をしたいと思います。

それでは、以上で質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で10番上田議員の質問を終了させていただきます。（発言する者あり）

〔18 番「議事進行」〕

18 番山口昌宏議員

○18 番（山口昌宏君）

議長にちょっと御相談ですけれども、競輪事業の中で、追加議案として出るというのは、委員長会であり、議運であり、話はありませんけれども、その金額的なもの、それ、どういうふうなものをするっていうのはですよ、まだ委員会にも示されていないので、その辺についてですね、議長として対応をしていただかないと、今後このようなことがですね、ずっと続いたら、またいろんな面でおかしくなると思いますので、その辺の精査をよろしく願います。

○議長（杉原豊喜君）

ただいまの山口昌宏議員の議事進行につきましては、小田営業部理事よりBMXコース、これについては追加議案として今議会にお願いをするようにして、公園整備の中ですね、BMXコース設置についても、今議会の追加議案でお願いしたいと思っているということを申されましたけれども、この追加議案というのは、ただ追加でお願いしたいというだけのことであって、中身には触れておられませんので事前審査には当たらないと思います。

しかし、追加議案と言った以上は、もうこれが事前審査に値するというので、先ほど理事には、ここで追加議案とか、発言には厳に慎むようにという注意もいたしておりますので、それで御了承をいただきたいと。

今後とも執行部の皆さん方もですね、そういったことがあった場合には、特段注意をしていただきたいと思います。よろしゅうございましょうか。

ここで議事の都合上、10分程度休憩いたします。

休	憩	9時46分
再	開	9時56分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、16番宮本議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

（全般モニター使用）おはようございます。これより、16番宮本栄八の一般質問をさせていただきます。

いつものように8項目、一応八策にこだわっているんですけども、ちょっと多過ぎるかなというふうなことも思っております。

では、できるだけ早く、きょうは画像も少し減らしてきておりますので、少し早く進むと思います。

ではまず、第1番目の文化体育館・グラウンドの整備です。

文化体育館については樋渡前市長のときですね、もう4年ぐらい前になると思いますけれども統合、移転先を発表するという事になっておりました。その理由としては、維持補

修費がつくりかえた支払いよりも多いんじゃないだろうかとか、耐震性がないとか、大ホールの稼働率が少ないとか、そういう樋渡前市長の指摘もあっていただけかなと思っております。

そして、白岩体育館も老朽化して耐震性がないということで、統合して移転したいということだったんですけども、その次に、大型事業の中に、そのとき目白押しになっておまして、まだほかにもあるんですけども文化体育館、庁舎、こども図書館。庁舎とこども図書館はアセットマネジメントを避けて、先にいったと。そして、文化体育館はアセットマネジメント計画の中に入ると。その中で出たのが 30%を、40 年間で縮減すると。もう方向がわかったらですよ、ほかのところ 30%減らすのか、文化体育館で合計 30%減らすのかということで、すぐ行動に移れると思うんですけども、文化体育館の基本計画というか、大体する、せんとか、そういうのがわかるのはいつごろ示されるか、お答え願います。

○議長（杉原豊喜君）

末藤こども教育部理事

○末藤こども教育部理事〔登壇〕

おはようございます。文化体育館の建設、あるいは基本計画ということでございますけど、現段階では具体的な方針等は決まっております。

以上でございます。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

そしたら、どういうふうにして話が集約されていくのかについてお聞きします。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

末藤こども教育部理事

○末藤こども教育部理事〔登壇〕

文化体育館等につきましては、非常に市としては大きな事業でございますので、市役所全体で、その規模とか機能、あるいは一番肝心な部分が財政的部分かと思えます。そして、それに並行しまして利用者、市民の方の御意見等を聞いて、つくっていくというような形になるかと思えます。

まだ、今のところその段階ではないということで答弁いたしたいと思えます。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

はい、わかりました。

まあ、やろうと思えば、公共施設整備基金とかですよ、これ以前も言ったですけども、30億ぐらいあるので全然できんことはないと思うんですよ。やるのかどうなのか、耐震補強なのか、そんなの決めることが問題なのかなというふうに思っております。

次は、グラウンド整備です。

文化体育館も市民の方に言われて、これもそうですけども、県内といわず、前はもう宮崎とか鹿児島とか先に進んでいたんですけども、最近佐賀県のほうにもなって、健康増進子育て支援でグラウンドの新設とか人工芝化というのが、広まっております。

それで、サッカーの試合とかは、ほとんど武雄ではないですね。江北とかですよ、よそに行つて。大川のへんに行つたり伊万里湾のほうに行つたりとか、武雄ですることは余りないですね。

それで結局、以前も、これ古い写真ですけど、みゆき公園の芝生化。これの先についても、新幹線の泥を入れ込んで、また拡大したりしておりますね。これが多久の、こっちは人工芝のやつです。そしてまた、佐賀市の健康運動センターっていうのもありますし、これは芝生じゃないですけども、白石町の役場前にある総合グラウンド、ここでも大会があつております。

以上のようなことでですね、市民の方から武雄もそこそこのまちだから、そのくらいのことあつてもよくないかと。よそに出かけて行かんでも武雄で開催されてもいいじゃないかというふうに言われますけれども、市の総合グラウンドっていうか、そういうことについてのお考えをお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

末藤こども教育部理事

○末藤こども教育部理事〔登壇〕

まず人工芝を用いた多目的グラウンドの整備でございますけど、それを望む声は届いておりません。したがいまして、その整備については考えていない状況でございます。

白岩の整備についてもですね、今のところ考えていないところでございます。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

声が届かないっていうことですね。結構お話としてはですねあるとですけど、はなから武雄市でできんかなと思われているのかもしれませんが、そういう声を市役所に届けてくださいということはお伝えしたいと思います。

続いて、市営住宅の整備です。

ここの10年、22年から31年までが10年計画になつとって、後半が27年から31年まで

工期になっております。工期でやるのが大野住宅の建てかえと、この小原・高野住宅の統合移転っていうのが 31 年までにやるメニューです。それで大野住宅のほうは済んでおりますね。そして今度、小原・高野の統合住宅については、まあ 29 年に設計して 30、31 年で何ですかね、まあ入れ込むとか入居するということになりますので、29 年 3 月ですね。28 年度末ということで、移転先を公表するということがあったんですけども、全然何もありません。

そこで危惧と言ったらいかんですけれども、単なるおくれなのか、ひょっとしたらその住宅長寿命化計画にあるセーフティーネットのためとか、民間活力導入とか、今みやきですかね、県の東部のほうでは民間の活用した市営住宅を——町営住宅ですかね、してあると思いますけど、そういうふうなことを再度考え直しているのかですね、その状況についてお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

高野・小原の住宅については、長寿命化計画に基づきまして住宅の建てかえを実施いたします。予定地は、ちょっと 1 年おくれましたけれども今年度中に予定地を決定したいと考えております。

それと民間の資金を活用したということですが、起案までできているのは定住促進の住宅でございまして、家賃が高いものですね。

武雄市が考えているのは低所得者向けの公営住宅でございまして、今回は民間の活用は考えておりません。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

わかりました。単なるおくれということですね。

発表して、31 年度までには終了すると。そして、それは何もそういう民間というのは、よそではそういう住居促進だから直接ではないと。

でも、考え方によってはですよ、民間を使うことも、もともとこの市営住宅についての提案の中に書いてあったことだからですね、できんことはないと思いますけども、わかりました。

次は戸数的に大野住宅、14 やったですかね、16 やったですかね、と、こっちはちょっと大きさが大きいのでですね、いろんな大変なことがあるかなと思います。

そいで、こちらの方のお話を、実際どういう気持ちでおられるのかなと。

小原のほうはちょっと奥のほうにあるから、交通的に不便かなと。しかし、こっちの高

野のほうはまちに近いのでここでもいいですよという方もおられたり、いろいろおられるんですけども、共通して言われることは、周りの方からいろいろ言われると。そういうふうに計画なっていますねと。

しかし、自分たちのところにちょっと説明が1回もないもんで、2年後ぐらいに移転せんといかんってなれば、結構今まで40年とか30年とか生まれとって、こう大きな、その自分の人生の中で変化なので、ちょっと説明会みたいなやつを開いてもらえんやろかという要望があったんですけども、それについてのそちらのお考えをお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

予定地等についてはですね、近隣の住環境も踏まえまして総合的に選定する必要があると考えております。地元との調整を図りながら、決定したいと考えています。

またその……（発言する者あり）現在住まわれている方についても、意向調査等を今年度を実施したいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

意向調査もですが、どういうふうになっていくのか自体も、全くわからないということですね。そこも意向もですけども、説明もしていただきたいと思います。それ同時にできると思いますので、よろしくお願いします。

今まだ結局、小原、高野ってここですよ。大野もあるんですけど、まだ浦田、下西山こうたくさんあります。次の、31年度後の計画も早目にしていきたいと思っております。

次は、体育館等の照明のLED化です。

一応今——合併してですね、山内西小学校で一応耐震の、市内全体育館の改築が終了しましたということですね。全部終了しましたと。

そしたら今後どうなるのかなとちょっと自分が思って、築年数の古い体育館をちょっとこうウォーキングのついでっちゅうんですか、見に行ったわけですよ。たまたま朝日にちょっと行ったんですけども、まあ初めてというか、夜初めて行って。そしたら、どんよりしとるとですよ。何かオレンジでどんより。何か昔の馬神トンネルんごた感じでもう、どんよりしとると。（笑い声）ありゃって。こがん場所によって違うのかなというのを思ったわけですよ。

まあその後、わーっと何個か変えられたら劇的に変わっているんですけども、そういうことで、結局今ちょっとLED化が、新しいやつが進んでいて、ああ、場所によっては大分

差があるんだなっちゅうの初めて気づいたわけなんですよね。

そいで、その中で古いところで何か建てかえをせんで、すべきターゲットとしてはその照明、そしてまた、トイレの洋式化とかそういうのがあるのかなというふうにちょっと思ったんですけども、まずはその照明のほうから、同じその何て言うかな、まあちょっと古さはあっても同じその環境というか、運動しやすい環境は平等でなくてはいかんかなというふうに思いまして、ちょっとその後調べてみました。

そいでまあ、まずはですね、そのLED化。省エネでもあるし、明るくもありますので、LED化について、できないかについてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾こども教育部長

○松尾こども教育部長〔登壇〕

小中学校の体育館の照明ということでありましてけれども、近年、改築・改修を行いました北方小学校、武雄小学校、山内西小学校、武雄中学校の4校の体育館の照明につきましては、照明機器をLED対応に切りかえを行っております。

それ以外の学校の照明につきましては、LEDの対応に切りかえを行うためには照明機器本体部分の交換、改修が必要ということで、現在設置している電球での交換を行っております。今後のLEDの対応につきましては、それぞれの体育館の改修工事にあわせて切りかえたいということで考えております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

ということは、まだ改修があるということですかね、各地で。そういうふうに思っておりますませんでしたので、それもちょっとこうあれなのかもしれない、そういうふうに言われただけで、ミニ改修なのかもしれませんけども。

それで、今ああいうふうに言われましたけども、まあLED、これもう一つ北方小学校ちゅうのもきょうわかって一応追加になっているんですけども、大体ですね、そのどんよりと暗いのが、このナトリウム灯ってあのオレンジのやつです。あれが何でいっばいついていのかって調べると、こっちがエネルギー効率ですもんね。これが見え方なんですよ、隣は。だから、あのオレンジのナトリウム灯って結構効率がいい電気だったんだなということがわかったわけですね、今回。しかし、見え方が悪いんだなと。ああそう、なるほどねと。

それでこの水銀灯は、結局エネルギー効率が物すごい悪いので、今メタルハライドっていうやつにかえてあるらしいですもんね。そしたら、これが効率がよくなって見え方もよくなると。しかしまだ朝日小、山内東小はすべてナトリウム灯。北中、川登中、山内中も

ナトリウム灯があるわけなんですよね。だから、ここを今そのメタルハライドにかえてあるというんですけどもこれを、機具を——LEDでも今の機具につけられるのもあるんですけども、ちょっと余りそこも言うとも長くなりますので、それをセラミックハライドにかえて、今の電球と交換するとそれが明るくなるということで。

今回何を言いたいかという、結局何でこがんなつとるかという、もともとついつつやつを事務員さんとか先生がそのまま交換しているという部分もあるわけなんですよね。その電球を持って、電気屋さんで買うと。だから同じやつがずっと連続されていると。

だから、まず1回だけ市が全体を見てですね、どうなっているか把握して、まずは最初のセッティングだけ市でするとか、こういうふうこういう電球にかえなさいという指導をしてもらいたいんですけども、その辺についてのお考えをお聞きます。

○議長（杉原豊喜君）

松尾こども教育部長

○松尾こども教育部長〔登壇〕

今回の調査で全小中学校の状況を確認しましたところ、メタルハライドランプが明るい、そしてまあ、自然光に近い、省エネ効果が高いということで、ほとんどの学校で設置をされているようです。

それに伴いまして、現在ナトリウムのランプでの交換を行っている学校につきましては、他の学校の状況、それとメタルハライドランプの効果等について周知を行ったところであります。

今後につきましては、それぞれの電球の特性、効率性について最新の情報を得た際には、各学校に情報の提供を行っていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

例えばですよ、情報提供するんですよ。でも今、市からお金をやるのは切れた分の交換しか渡さないんじゃないかなと思うわけですね。

例えば山内東小が、全球取りかえたときに、教育委員会のほうからそのお金は出してもらえますかね。

○議長（杉原豊喜君）

松尾こども教育部長

○松尾こども教育部長〔登壇〕

予算の話かと思われかもしれませんが、まずはそういった状況、影響が、山内東小はナトリウムでありますけれども、ほかの小学校とかと比べて、影響がどれだけあるのかっていうのを、まず確認させていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

まず、最初のセッティングは、LEDのところは何も学校の運営費から使わなくてもLEDつけてあって、ずっとそのお金は心配せんでいいわけですよ。でも、前からそれをつけてあるところはずっと自分のお金を出して、していかにいかに、その辺は平等性を保ってほしいなと思います。

続いて、武雄バイパスの連結道です。

もう何回も言っておりますけども、最近ずっと言わなかったら市民の方から、あんたどがんなつとうとあいはって。もう最近何も言ひよらんけどって、こういうふうに言われますのでもう一度、今できるところでっていうことでやっていきたいかなと思っております。

それで結局、北方、武雄バイパスの出口変更と、34 号の接続問題というのは、中央線のところで混乱しますよというのはもうずっと以前から言っておりますけども、市としては北方バイパスの認可を受けて、その先行着手で解決しようかなって思われているんじゃないかなと思っております。しかし多分これが、20 キロ認可を受けてするには、20 年ぐらいかかるんじゃないかなと思うわけなんですよ。そこで、現状どうなるのかなと。

私はもう過疎債を使って、0 円建設でして国に渡せばいいかなと思っていたんですけども、まあちょっとそういうことできんちゅうことで、今の現状は国はZ型というんですかね、眼鏡市場のこの北方新橋線の改良で対応できますよと、そのくらいの交通量で対応できますよちゅうことですので、それを信じるしかない。

ということでですね、ただそこでの問題は、結局のところはこのZ型を、まあ交差点部分は国がするということですけども、その間の百何メートルを市道で整備するちゅうわけですよ。そいぎ、本当はここは国で整備してもらいたいですけども、もう時期的に既に遅しということで、これは市がせんといかんと。費用負担を後で、後年差しかえてくれるかどうかはわかりませんが、まあ市がせんといかんと。

しかし結局ですね、このところも国道だったんですけど、今の出口のところから県道になっているとですよ。こっから国道になるとですよ。だから多分、今度もこう国道が来て、こうなったらここ県道に格下げになると思うわけですよ。

そいぎ、国道と国道とつなぐとこ、今例えばここは国がしてますよね。だから、ここもつくった後に国に移譲して、今後の 20 年後にこのバイパスができるまでの、この維持管理は、国にしてもらわんといかんとじゃないかなと。だから、ここを国にとってもらうような動きをせんといかんのではないかなというふうに思いますけども、市のお考えをお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

先ほど宮本議員の質問の中で、LEDランプがついてるところは市費で、市のお金でして、あとのところは自分のお金でしているということで、変な誤解をあたえると思いますので……

〔16番「学校の運営費です」〕

それも市費です。市費で、全部市の備品として変えておりますので……

〔16番「何て言えばいいですか。はいはい、わかりました。はい、学校の費用。はい、わかりました」〕

誤解のないように。（「自分のお金という言葉を使ったことが問題」と呼ぶ者あり）

〔16番「学校の費用ですね。はい、わかりました」〕

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

ちょっと一つ議員のほうに言っておきますけど、今の国道が県道になるとか、あと20年かかるとか、議員さんの想定で言ってらっしゃると……

〔16番「そうですよ。はい、そうです」〕

それは市民の皆さんにちょっと、そがんもかかるとやという誤解を招くおそれがありますので。

〔16番「そいぎ、正しい答えを言うてください」〕

武雄市としては、今の工事の区間を東のほうへ延伸するという要望活動を、強く実施しているところでございます。それで、国のほうでも前向きな検討をなされておりますので、その辺の御協力をよろしく。（笑い声）

それとZ型の部分ですが、施行区分についてはですね、平成27年度に武雄市と国道事務所において、交差点部分を除く中間部分の約140メートルの区間を、武雄市のほうが施工するという覚書を結んでいますので、それはもう変わりません。

〔16番「はい、それはわかりました。そいけん国に」〕

あとは引き続き事業が延伸されるように、今、要望活動を展開しているんでして、あくまでも北方新橋線は市道でございます。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

そしたらですよ、その北方バイパス、大体市の予想では何年後にできますか。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

それはまだ明確になっておりません。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

明確になるまででいいとですよ、私の希望とすればね。

ナビもびっくりすつとやなかですかね。国道と国道の間を市道に変わりましたとか、それは出んで思いますけども。

普通ここを日に何台も走ると、それ補修を武雄市がせんといかんわけでしょう。ずっと補修して、夜間作業もせんばいかんわけでしょ。それはなかなか厳しゅうなかかなと思います。

私はそこを取ってくれということが、こっちに対するプレッシャーにもなるかなと。ああ、こういうのせんといかんと。そいなくもうこっちは早うしたがよかばいというふうになるのじゃないかなつちゅうようなことも考えておりますけども、まああくまでも市で守っていくということだからですよ、どっかで考えを変えていただければなつちゅうふうには思っています。

それで、まあ市道の国道への返納はしないということで、したらどうですかね。何もお金はかからないでしょ、返納して、住民だって自分の土地を市のほうにですよ、位置指定道路として返納したりするですよ。自分の資産でも持っとくよりも、将来を考えたらですね。だから、そういうようなことも考えていただきたいと思います。

次に、庁舎です。

まあ庁舎の移転は着々としていか進んでおると思いますが、まあ依然から言っているように、市民の関心は市役所職員さんの仕事をするとところよりも、そのほかのところに関心があるということですね。

それで、現庁舎の活用ということで、この間ちょっと駐車場案みたいなことも出ましたけども、まだはっきりしていないと。それで活用については特別委員会にお話していただきますと言うけど、原案が出てこんのやったらですよ、やっぱり3案ぐらい出てこんとまあ、つつこんだ話はできんからですね。まずは市のほうから、施設整備課のほうから活用の原案を、早く出してもらいたいと思いがすが、その辺についてのお考えをお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

庁舎跡地の利用計画についての件でございますが、新庁舎へ移転後、現在のこの庁舎は解体して、ここを更地にするということは、従前よりお示しをしているところでございますが、その後の跡地活用方法については、今のところ具体的な案を持ち合わせているわけでは

ございません。まちなか環境の変化ですとか、他事業との関連、それから市民の皆様方のニーズなど、いろいろな観点から検討が必要であろうかと考えております。

いずれにいたしましても、いろいろな方々の御意見をお伺いしながら活用案を探りたいと考えておりました、計画策定に当たりましては、庁舎建設の関連事業として議会の庁舎建設等特別委員会に御協議をお願いしながら、これを進めてまいりたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

だから、庁舎建設等特別委員会に御協議を願いますと、ずっと前から言ってる、何回も言われてるですよ。それ懸案を出さんことにはですよ、御協議できんでしょう。まず何もない、紙1枚もないところですよ。だから、それをしてもらわんといかんと。

それは何で今回言っているかという、結局今度車庫の件が出てきているわけですよ、こう議案とか。そいぎ、結局ここにその車庫を、市の車庫を持ってこんといかんのかって、向こうであまり動かん車だったら、現市役所のほうに持っていてもいいんじゃないかって、統合的なその駐車場計画っちゃうことになるわけですよ。

ここはもうお客さんだけにして、もう稼働の少ないやつは向こうに持っていったりとか、だから、それをするためには現庁舎の案がなければですよ、複合的に考えられないというのが今回のあれですので、早く出すようによろしくお願いします。

市役所移転に伴って、いろいろ影響を受けるのが前の中央公園ですね。中央公園はとりあえずトイレもあって整備されているので、役割を果たしているのかなと。

ただ、こっちのまちなか広場のほうがですよ、もう議員の臨時駐車場になっておりますので、新庁舎ができたら議員の臨時駐車場はここではないと思います。ここも、そしたらもう全く主立った活用がないわけなんですよ。これだけの広さが一等地にありながら。

だから、このまちなか広場は、この市役所の移転でどう変わっていくのかですね、その辺についてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

現在、実施しております武雄北部土地区画整理事業において、多目的広場として整備をしております。イベントの会場や地域の発展に活用していただきたいと考えております。

区画整備事業でのこれ以上の整備は考えておりません。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

これ以上って、これがもう最高値ということですかね。この砂利をこうはってこうして。いや、そいは——これ結局駅の南から持ってきたとですよ、はっきり言って。そして、南国ビルも移転しとうわけですよ。持ってきたら持ってきたで、ある程度こうせんと。使ってくださいって何も——今でも使えるんですかね。ほかの目的で使えるのですかね。ちょっとわからないんですけども、募集もしてあるのかどうかもわからないんですけども。

これがですね、ちょっと調べたところによると特殊道路ってなっていると。だから、駐車場にされんと、ということみたいですもんね。だから、車入れられんと。大体議員の車も、普通入れたらいかんとかもしれんですけども、臨時的だからちょっと特別枠なのかもしれませんけども。

だから私が思うに、ちょっと提案としてはですよ、この公園の一部と、この公園の一部を差しかえてですよ、結局これだけ持つとけば何もされんということですよ。だから、そういうあれになるわけでしょ。もうこれ以上の整備をせんという話になるわけでしょ。だから、そこも総合的に考えてやってほしいなど。

このままこれで寝かせてずっとしとったら、だれが考えても、何しようさろうかねっていうふうに思うんじゃないですかね。というふうに思いますので、もう一度そこは、このままといいことじゃなくて、もうちょっと何か一ひねり、二ひねり考えていただければなというふうに思います。

それで、次は観光拠点整備についてお聞きします。

私もメタボのあれで、ウォーキングで夕方歩くようになって少し視界が変わってきたというか、世界が変わってきたということで、武雄温泉駅のほうに歩きやすいのですかね、夜ずっと歩いていっております。議員さんにも、池田議員さんとか猪村議員さんにも駅で会ったことがあります。

それで、武雄温泉駅というのは車で行ってればあまりちょっと、直接関係ない人も多いというのがありますけども、歩いて行けば鉄道利用観光客のやっぱり拠点ですよ。やっぱり夕方、観光客1組、2組は絶対会いますので、その観光客の実態もわかります。気づいたのは、結構観光客も、韓国の方も多いんですけども、年配が多いと。だから、もっと狙い目は若い人も、もう一段いるんじゃないかなということも感じたりしております。それは直接関係ないのであれですけども。

それでいつも思うことが、北口の辺を歩いていたらお客の方が北口の前に出てきてトイレを探してるんですよ、一生懸命。こう一生懸命探して、あれないねないねって。ここですよってごっとい教えてやらんばいかんですね。

そいぎ何でそがんふうなことになつとるのかなというふうに思うとですね、結局、トイレはここに行けば男女あって、身障者というかみんなのトイレまで、ここは一本だから絶対わからんことはないですよ。ただ、6時になるとここに格子シャッターを閉めんさあわ

けですよ。それで、案内板ってこっち側について、この真ん中に小っちゃく、改札から来た人が右出口、左出口、真ん中にトイレって書いてあるだけで、ここをこう、こっちとこっちを見よう人は絶対気づかんとですよ。私も今度言われて初めてそれ見て、こっちからこう見て気づいたという感じ。

それで結局どうなっているかという、ここのシャッターの足下に紙で書いた、トイレはこっちに行きなさい、こっちに行きなさいと書いてあるわけですよ。でもトイレを探すときですよ、こう下を向いて——スーパーでも上向いてこう見て、あらトイレどっちかなとこういうふうに、普通はそうですよ。だから、お客さんがこっち側にまず出ていって、ずっときょろきょろ見直したりしよんさわけですよ。

ということで何を言いたいかっちゅうことは、武雄市もユニバーサルデザインとか言いよんさあけん、言っておられるもんで、今これがいつもあるとですよ。今回私が質問出したら早速というか、ここに付けてもらって行動力はあるなとは思うとですよ。（笑い声）行動力はあるな。これは基本的に行動力はあるなと思うけど、やっぱりこっちの上のほうにトイレの案内を書かんと、やっぱりわからんもんが8割いても当たり前かなというふうに思うわけなんですよ。

そいで、その夕方、南側からそのトイレのほうを見ても、なかなか暗いと——写すのは難しいとですけども、これが小っちゃいから、南口の向こうから見てもここに電気がついてないので、これがトイレのマークなのか何なのかよくわからんというような状態もあるとですよ。だから根本は、駅からすればですね、何もここを武雄市が閉めんやったら普通に行きんさあけんが、何もわからんことはなかって駅は思っと思うとですよ。

駅も何ですかね、終電になったらここを閉めて、ここに自動ドアがあるのでここを閉めれば館内に入らないと。それまではオープンでいいですよということになっているけんが、武雄市がここを閉めることによって、すべてがこう計画が狂っと思うと。

だから、本当はこのギャラリーのところだけ閉めれば何のことはないとですけども、それを言うとまたちょっと金がかかるので、あんまりかからんかもしれんですけども、まずはこの上にトイレの案内をすることと、このところに電気をつけるか、もうちょっと明るくするかをしていただきたいというふうに思うんですけども、それについての市の意見をお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

千賀営業部長

○千賀営業部長〔登壇〕

まず、案内表示のほうからお答えしたいと思います。

改札口を出てすぐの駅構内上部に設置してある案内板についてですが、その分と先ほどもございましたトイレの外側の南口のほうですね、案内看板がちょっと小さいと、その2点

については今後JRさんと改善策について協議をしていきたいというふうに考えています。

あわせて、今暗いということでしたので、照明の件についても協議をさせていただきたいというふうに考えております。

なお、先ほど議員さんからございましたように、市としてはやはりそういったトイレ利用ということで駅北口、南口の案内を含めて、案内箇所をふやして対応しているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

よろしくをお願いします。

でも本当を言えばですね、ここを閉めたのが、武雄市がここをこう閉めたのが原因なんですよね。最初、トータル的に考えられとるとですよ。

それで何ていうのですかね、みんなのトイレですけども、身障者の方がまわってこう行っていたんですけども、結構大変ですよね。ぐるぐる、ぐるぐる、ぐるぐるまわらんといかんから。だから、あるけど行きにくいというのはもう、はっきり言って行きにくいとですよ。こう、ぐるぐる、ぐるぐるここ回って、ぐるぐる、ぐるぐる戻ってこんといかんからですね。

だけん、本当はこの解消をですね、ちょっと将来的に通れるようにしてもらえばもう本来の形になるもので、そこも考えていただければなというふうに思います。

それで続いてですね、続いては、もう一点気づいたのが、その観光客の方が旅館を探していたので私がちょっと自分の携帯で、こうして探してあげたんですけども、結局その旅行客が言うには、4人ぐらいの旅行客だったんですけども、博多を5時台の特急で来たのにもう閉まるととですよかって、ちょっと激しい口調じゃないですけど、ちょっと何かサービス足らんじゃないですかごたあことば言われたわけなんですよね。確かにそうだなって。5時に博多を出てくるということは、5時について30分電車待ってそれから出てくると。そうならば、そう遅い時間じゃないからですよ、向こうからすれば当然そのぐらいはおってほしいなというふうに思われているのかなということで、今は観光——このギャラリーにも、武雄市がやっておった「たけなび」という女性がおられて、観光協会にも同じようにダブルでおられるとですよ、ずっとですね。ダブルでおって、同じ6時ごろにダブルで帰られるわけですよ。一人ずつおって、ずれとけば何のことはないっていうか、観光客からすればそういうことを言われるんですけども。だから、観光協会も予算があるのでちょっと難しいかもしれないんですけども、まあ交代交代でも、その特急がつくまであけることができんかなと。

そういってもこっちは市のほうだから、今の方に時給を足してですね、もう1時間ちゅうんですかね、40分ぐらいおっていただくようにですね、そういうことができないかについてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

千賀営業部長

○千賀営業部長〔登壇〕

お答えする前に、先ほどからあっておりますシャッターの件で、市の方針だけでおろしているというような発言があっておりますが……（発言する者あり）確認したところですね、観光協会の意向を確認した上でJRと協議しまして、防犯管理上夕方18時から翌朝8時半までシャッターをおろすということではしておりますので……

〔16番「はい、わかりました」〕

よろしく願いいたします。

それと、今お問い合わせの件でございますが、市が直営でお願いしています「たけなび」が朝9時から18時まで。それと武雄市観光案内所、これは観光協会が運営されておりますが、8時30分から17時45分までということで案内業務を行っております。

旅館やホテルに確認をしましたところ、一般観光客の多くの方が、チェックインの時間帯が16時から18時までが多いと。チェックアウトが8時半から10時半までの時間が多いということで、完全とはいきませんが可能な範囲で対応できているのではないかと、というふうに考えております。

ただ今後、業務時間内の利用状況をもとに予算の範囲内で業務時間の変更等が可能かどうか検討させていただきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

ここは派遣会社の方に頼んであるという話ですもんね。だから、派遣会社と相談して、派遣会社にそういうオーダーをすればいいんじゃないかというふうに私は思います。こちらがその仕様書で、派遣会社と特急が来るまでということであればできるんじゃないかなというふうに思います。そういうことでよろしく願います。その人の言われることも、もっともだなと思ったもので、それはちょっと言わんといかんというふうに思っております。観光協会とも話し合ってますね、よろしく願います。でも、市がその部分はせんといかんかなとは思っています。

続いて、通学路の整備の問題です。

以前から、武雄小学校北側の入り口は危険だというのはずっと言われております。今回というか、ちょこちょこ言われていたんですけども、そこまでないかなと思ったけど、また今度2回続けて言われたもので、やっぱり言わんといかんかなというふうに思っております。

武雄小学校北側はいつももう、上野元議員さんも言うくらいだったので、言ってもらったので結構知られているかなというふうに思うんですけども、もとの武雄保育所

の横ですね。

そしてもう一つは、御船が丘小の前の白岩の、以前はここ歩道なかったんですけども、どうしてもということでガードレールをつけたと。そしたら結局、ここの交通指導の方と子どもさんを連れた方って、ここの溝のふたをとことこ歩いて行かんといかんちゅうわけですよ。これがですね、このアスファルトの部分と、ここのコンクリートの部分と差があって、こっちに行ったりこっちに行ったりこう、こうこうせんばいかんと、人が来たら。

そして、まだここはあれですけども、秋になればこっから葉っぱがここにどっさり山積みになつるとというような格好ですよ。なって、ここだけは都市計画課でそのときに、近年は片づけてもらいようですけども、前はここにやっぱり山積みになつたですね。

それで今、自転車で来られているんですけど、これでちょっと子どもさんが行けばという想像してもらえればわかると思いますけども、絶対無理ですよ。この人もちょっとここで、とりあえず入る前に待ったほうがいいかなというような格好で待っておられると思いますけども、この2つの箇所が、私はちょっとこう改善せんといかんかなと。子どもたちのためでもあるし、住民の方にとっても改善せんといかんかなというふうに思うんですけども、教育委員会としてこの通学路について、改善の必要があるのか、また代替的なことが考えられるのか、その辺についてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾こども教育部長

○松尾こども教育部長〔登壇〕

武雄小学校と御船が丘小学校の通学路ということですが、保護者のほうからこの通学路に対しまして危険箇所に対する意見、あるいは通学路の変更の要望は現在ありません。

武雄小学校の東側、坂道のほうですね、そこの通学路につきましては、その坂の小学校よりちょっと上のほうになりますけれども、ことし3月に路側帯を加工するために側溝蓋の設置を行ったところで、通学路の変更は考えておりません。

また、御船が丘小学校の通学路につきましても現地を確認しましたところ、児童2人が並列して十分に通学できるスペースが確保されているということで、これについても通学路の変更は考えておりません。

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

こちらについては、危険だからということですかね。この裏の溝のふたを、まあ簡単に言えばふたしたちゅうことですかね。小っちゃな溝ですけど、広げたということですけども。

以前ですよ、武雄保育所が移転したら用地が確保できるので、そのときには広げられる

みたいな話やったですよ。今は用地がないからできんけど、用地があればできると。

そいぎ、武雄保育所がもう今出ていってですよ、今児童クラブになっていますけども別に人が通ればいだけなんですよね。

だからここだって、これを解体してですよ、このところを広げれば十分に広げられるんですよ。その辺について建設のほうではどうお考えかお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

旧武雄保育所の横の件ですが、離合場所程度はつくれるかなという感じでおりますが、武雄保育所跡地利用計画の中でまだ道路部門のほうまでは話があっておりませんので、その跡地利用検討の中で検討したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

ここが許されれば離合場所はできんことはないというお話と思います。

そしたらその、それこそ知りたいのはですよ、その保育所跡地計画というのをたてて計画的にやっているのかどうかもわからんとですよ。

児童クラブも耐震がないからしばらくと言われてますから、その保育所の跡地利用計画というのはどういうふうに進んでいるのかお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾こども教育部長

○松尾こども教育部長〔登壇〕

武雄保育所の跡地ということですから、現在まさに放課後児童クラブということで活用している土地、敷地でありますので、このあり方については今後、アセットマネジメント等で検討していくことになるかと思えます。

その後に跡地利用の検討に入るということになるかと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

16番宮本議員

○16番（宮本栄八君）〔登壇〕

では、実際この辺は関係ないとですよ、その児童クラブには。入り口も向こう側にありますし。だから、それと分離して考えたほうがいいんじゃないかなというふうに私は思いますけども、それはまた今後の議論にしたいと思います。

この道路が何で真ん中にとことこして、これを平らにするだけでもできませんかと言ったわけですよ。いや、これはもともと道で、道の溝がここになっているからここが低

くなって段差があると。だから、道路としては当然と言われるわけですよ。

でも、もう今は道路じゃないわけですよ。だから、前は道路として当然かもしれないけど、今は歩道として当然にしてもらいたいですよね。だから、これをフラットにすることはできないんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

こちらのほうでも現地を確認しております。

一部、側溝が中央にあります。ふたつき側溝で、議員がおっしゃる段差があるという、大した勾配でもなかったわけでございます。（笑い声）

それで、その整備は考えておりませんが、自転車が通ったらちょっと歩行しにくいということでございます。この狭い歩道については自転車は通行することができませんので、ライン等で路側帯部分をちょっと広く取って、自転車が通るようなことは考えております。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

それとですね、自転車は外を通らせるちゅうわけですよ。

今度、この自転車のところは、ここのこっち側のこの、何ですかね石をとって——今自転車はこっちに行ったりもするけど、ここに石を置いてあるけんがなかなかうまく行けんちゅうところもあるわけなんですよ。

こっちの石をとって広げることとはできんとですかね、歩道を。（発言する者あり）ここの石垣ちゅうんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

歩行するに当たり、幅員的には十分だと考えております。

右側の石垣は都市公園施設でございまして、都市公園の面積を簡単に変更することはできません。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

ちょっとここはですね多分将来的にというか、今、御船が丘でですね、何か地震が来て危ない、もし崖崩れ——子どもが危ないというのは、この一角みたいになるわけなんですよ。だから、ここはもうずっと私じゃなくても、ほかの議員さんもずっとやっていってもら

えるものと思っておりますので、今後ともよろしく申し上げます。

続いてですね、働き方改革って今、政府のほうで言われております。

同一賃金・同一労働ということで、武雄市も同一賃金・同一労働をどういうふうにしていくのかなど。正職員さんと派遣職員さんというか、そういう方と同一賃金にしていくのかなど。そこはわからないですけども私、合併を推進しとったもので、気になるのが、合併のときにですね、職員さんの給料は現給保障つって、武雄と山内は差があるけどもやむを得ないからこれでいきましょうと、合併を推進するために不平等な経過措置をのんでもらっているところもあるわけなんですよね。最低そこぐらいは解決せんといかんと。もう働き方改革前の、一步前提としてせんといかんと。

それで、結局もう 10 年になって支所も統廃合されようし、手数料も安いところから同じ高い金額に上がっていると。そしたらもともと、ここの不平等の経過措置は解消してやらんと、まず合併を進めたものとしてですよ、ちょっとこれはいかんかなというふうに常々思っとなるわけなんですよね。

それで、そのときもよう反対しんされんなと思ったんですけども、それは合併をまとめるために涙をのんでもらった部分もあるのかなというように思うんですけども。

そいで結局、徐々に今、月々の昇給のところでは修正が加えられているって、本当かどうかわかりませんが、見ることはできないので、そういうふうに言われているんですけども、明らかに制度が違うのが大卒・高卒の、旧武雄市のほうは 2 本立てで、山内で入られた方は 1 本になっているわけですよ。そこで明らかな不平等が生じとるわけなんですよ。

だから、この 10 年を機会に武雄にあわせて 2 本にせんと、同級生で給料が違うとか、それもともと山内に入とったけんって、同じ仕事をしています。こっちがもっと頑張りようかもしれん、ということでどちらかの 1 本というんですけども、武雄市の 2 本立てにあわせてしてあげるべきじゃないかというように思いますけども、この辺についてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

試験区分の違いによる初任給決定基準の差は、制度上、当然生じる差額でございます。学歴面上のランクが同じという理由で、実際に受験した試験区分の程度を上方修正する、あるいは下方修正するということが給料額を調整することはできません。

○議長（杉原豊喜君）

16 番宮本議員

○16 番（宮本栄八君）〔登壇〕

入ったときにそいで入ったからかえられんちゅうわけでしょ。

でも、何ですかね、現業職の人を一般職にかえたじゃないですか。入ったとき違うです

よね。(発言する者あり) 変えたやなかですか。変えればそれ職種に応じての給料になっとうわけでしょ。

そいけん、そいと、きのう職員の採用のとあったですよ。一般職のところは高卒大卒あって、土木とかは高卒は大卒と一緒に試験を受けるわけですよ。大卒とらるっぎ大卒の給料なんですよ。違うとですか、高卒の給料になるとですか。お聞きします。

もう答えられんぎよかです。

○議長(杉原豊喜君)

答弁、簡単に答弁を。

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

土木の種目につきましても大卒・高卒の区分がございまして、一般職と同じような取り扱いになっております。

〔16番「そいけん2本ちゅうことやろう。以上で終わります」〕

○議長(杉原豊喜君)

以上で16番宮本議員の質問を終了させていただきます。

ここで議事の都合上、5分程度休憩いたします。

休 憩 10時57分

再 開 11時04分

○議長(杉原豊喜君)

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、1番豊村議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。1番豊村議員

○1番(豊村貴司君)〔登壇〕

(全般モニター使用) こんにちは。議長より登壇の許可をいただきましたので、1番豊村貴司、一般質問始めます。

今回はスライドに出しています4つの項目で進めていきます。まず初めに、西九州北部地域連携中枢都市圏構想について。2つ目が公園整備について。3つ目が保養村について。そして、最後に4つ目として、スポーツ政策について行っていきます。

それでは時間も限られていますので、まず最初の項目、西九州北部地域連携中枢都市圏構想についてに入ります。

西日本新聞によりますと、ことし5月17日、長崎県佐世保市において西九州北部地域連携中枢都市圏協議会の初会合が行われたと、記事がありました。

中核市の佐世保市を中心に、長崎県北部と佐賀県西部の自治体が県境を超えて連携し、行政サービスの向上などに取り組む連携中枢都市圏の形成を目指すというもので、その初会

合には長崎県から平戸市、松浦市、西海市の3市と佐々町、川棚町、波佐見町、東彼杵町、新上五島町、小値賀町の6町。そして、佐賀県からは伊万里市、武雄市、嬉野市の3市と有田町の計14市町が出席されたということです。

連携中枢都市圏構想の目的としては、人口減少、少子高齢社会にあっても圏域の中心都市が近隣の市町村と連携し、経済成長の牽引、都市機能の強化及び住民サービスの向上を行うことで、一定の圏域人口を有し、活力ある社会経済を維持するための拠点を形成することとされています。このことは総務省が取り組みの推進を行っており、平成26年度から全国展開が図られ、現在では23の連携中枢都市圏が全国で形成されています。その中には、今回のように県をまたいでの連携が図られているところもあります。

これまで協議、締結がされてきた事例などを見ますと、合併の前段階ではないのかや、中枢都市のみが活性化するのではないかといった懸念の声もあったように、連携による効果を考えることと、その反面で、武雄市においても今回の展開で同じようなことが気になるところでもあります。

冒頭述べました新聞記事には、今回の協議会初会合において、今後具体的な連携策を示した上で10月にも参加自治体を決定し、2019年4月の西九州北部地域での都市圏発足を目指すとあります。

そこで最初の質問です。この連携中枢都市圏構想については、さまざま思うところがありますが、会合に武雄市も出席をされていますので、まずはこの協議会における初会合の状況、また協議された内容について答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀企画部長

○古賀企画部長〔登壇〕

西九州北部地域連携中枢都市圏協議会につきましては、先ほど議員がおっしゃられたとおり、中核市である佐世保市とその圏域の7市7町、県境を超えまして7市7町が、広域で取り組む課題について協議を行い連携することで、あらゆる自治体資源を活用し、継続的かつ充実した地域社会の実現を目指すことを目的に現在設立されたものでございます。

初会合につきましては、5月17日水曜日に佐世保市で開催されておりまして、この1回目の協議につきましては、規約の制定、検討体制、また今後のスケジュール等について協議をなされただけでございます。

○議長（杉原豊喜君）

1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

第1回の会合については今後のスケジュール等について確認ということで、佐世保市のホームページにも第1回の会合の様子、議事等も載っていましたので、そちらも見たところ

ではありません。

小松市長はこれまで、人、物、金が集まる西九州のハブ都市を目指すということも繰り返し言われていますが、今回の協議会の初会合を受けて、武雄市としてはこの西九州北部地域連携中枢都市圏構想についてどのように考えるでしょうか。答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀企画部長

○古賀企画部長〔登壇〕

武雄市につきましては、これまでも佐世保市さんと観光等について事業等の連携は行っていたという経緯がございます。まずは連携に向けて市内のほうでも協議等を重ねて、今後連携ができるか検討を図りたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

今後、事業を検討しながらということ、まあ佐世保市から、この連携中枢都市圏構想自体が自治体同士の1対1の協議で進められていくというようなところで、佐世保市から武雄市と連携したい場合の案の提案であったりとか、逆に武雄市からもそういう案を出したりして、そこで協議を図っていった両者が合意できるような部分について、もちろん議会の議決も必要というようなことであります。そういったことを検討しながら進めていくということですが、武雄市は西九州の交通の要衝でもありますので、そして、先ほどのこの圏域で言えば東西を結ぶ結節点にも武雄市はなります。

そういったところを、十分特性を生かしていかないといけないと思いますし、冒頭言いましたように、ほかの先例の自治体でもいろんな懸念があったように、どうしても中枢ばかりになるんじゃないかという不安っていうものもあります。ここを進めていく中でやはり一番大事なのは、武雄市としてどうメリットがあるかと、武雄市のメリットをやはり追及して、そこを大前提として取り組んでいかないといけないというふうに思っています。

この点について、どのように考えられるでしょうか。答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

7市7町ということですが、大体数が多ければ多いほどあまり連携協定って私、意味がないと思っていて、これが佐世保市のための協定であっては全く意味がないというふうに思っております。

私たちはやはり佐世保市と、先ほどの1対1と、の——やるとすれば協定ということですが、そこはしっかりとですね、まず想定できるのは観光分野だと思いますけれども、

そこについて佐世保市も武雄市もメリットがあるというようなものがあれば協定を結んでいくと、そういう考えで臨んでいきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

今言われたように、互いにとってまあメリットがあれば協定を結んでいきたいということで、先ほど冒頭で 10 月までに参加自治体を決定してとありましたが、それまでの間で、例えば事務方レベルでもいろんな協議をされていくとは思いますが。市長も言われたように、武雄市としてのメリットがなければ意味がない協定になると思っておりますので、そこをしっかりと見極めながらというふうに思います。

先日、私の高校の同級生が、現在長崎県の県議会議員をしているもので、彼ともこういった話をしましたが、今後こういったところで佐賀、長崎で考えていかなければいけないところはあると思います。

今後、進めていく中で、行政としてもいろんな分野で検討されていくと思うんですが、やはり民間の情報、視点とか、そういったところをうまく戦略として活用することは必要だと思います。

武雄市においても有識者懇談会ですか、民間の方々とこれまでも行われていますが、この西九州都市圏構想においても民間の意見を求めることが有用であり、それが戦略をもって取り組むってということにもつながるんじゃないかなと思っておりますが、この点についてどのようにお考えでしょうか。答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀企画部長

○古賀企画部長〔登壇〕

この協議会、先ほど議員からもありましたように現在、事務方のほうで実際にメリットがあるか等について検討を行い、最終的に連携協定等を締結となった場合、その協定を締結する自治体の、民間からなる西九州北部地域連携中枢都市圏ビジョン懇談会というものが設立される予定となっております。ここで民間からの御意見を具体的な事業に反映させることになっております。

メンバーにつきましてはまだ未定でございますが、連携協定を締結することになれば市内の民間の方にお声かけをする形になると思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

今言われた協定を結ぶとなれば、そういう民間を含めての懇談会が、意見を求めるのが

あるということは私も確認しております。そういう流れで進んでいくということですね。

ただ私が言いたいのはですね、そこに至る前段階で、いろいろ策を練る中で、その中で武雄市として武雄市の民間の方々とやっぱり意見交換して情報を得る、その協定を結ぶまで。検討する段階での意見交換、そこでの戦略というのが必要ではないかなというふうに思っているところです。この点についていかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀企画部長

○古賀企画部長〔登壇〕

現段階につきましては、予定はしておりません。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

現段階では予定されていないということですので、検討していただきたいなというふうに私は思うところであります。

スライドに出したのは先ほどの圏域の図に、赤の線が西九州自動車道です。青が長崎自動車道です。私が議員になって最初のころの一般質問でもたしか出したと思うんですが、そのときにもお話ししたのは今後、例えば佐世保からの流れが、西九州道が完成したときに伊万里、唐津、福岡そちらのほうに行くのではないかと。現在、武雄を通過して佐賀、福岡というふうな流れが、それがこの赤のラインのほうに行くんじゃないかというふうなことも懸念しているところでもあります。

その中で今回、この都市圏構想の協議会の中に、佐賀県においても伊万里とか嬉野とか有田とか、そういったほかの市町も会合には参加しております。そういった点も含めて、この協定を見る中でも佐賀県という存在をやはりしっかり高めていかないといけない。その中でももちろん武雄市という部分を、しっかり武雄市の存在意義を明確にしていくこと、それも武雄市の協定を結ぶ中でのメリットになっていくんじゃないかなというふうに思います。

佐賀県における武雄市として今後、武雄の未来をどのようにお考えでしょうか。

ちょっと抽象的な質問にはなりますが、やはり武雄の存在意義というのも佐賀県自身も高めていかないといけないと思いますし、その中で武雄が佐賀県の西部の拠点として高めていかなければいけないというふうに思いますが、武雄の未来をどのようにお考えでしょうか。答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

現在、西九州道と長崎自動車道のジャンクションが武雄にございまして、そして、平成

34年には新幹線が開通すると。それによって鉄道の佐世保、長崎の分岐点が肥前山口から武雄に移ると、まさに鉄道、道路ともに武雄が交通の結節点、要衝になるというのが今後5年後になってきます。ここをチャンスと捉えて、まさにその地の利を生かして、私も常日ごろ言っております、西九州のハブ都市を目指すということでもあります。

ハブ都市というとは私は2つほどあると思っております、1つはやはり長崎で働いても武雄で住むというような可能性が出てくると。そういった意味で住むという点での、あるいは働くということもありますけれども、そういう意味でのハブ都市。

もう一つはやはり観光の可能性です。今回、佐世保のこの連携でも、観光というところは一番のキーになってくると思うんですけれども、武雄であれば佐世保、長崎あとは伊万里、有田その他の地域に対して、30分から1時間で行けるといような土地に、場所になります。まさに武雄は一つこう滞在型観光というんですかね、そこに、武雄に滞在していただいて、それぞれのところに放射状に30分から1時間ありますから、そういった滞在型観光、いわば観光ハブ都市というところの可能性は、私は大きくあるというふうに思っております。

この2点に向けて、ぜひさまざまな面で整備をしてまいりたいと思っておりますし、今回の協定の話の中でもこの点を意識して、締結するものがあれば締結をしていきたいと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

ありがとうございます。

私も交通の要衝であるということ、これを最大限に生かす、これがとても武雄の未来にとって大事になってくると思います。その生かしながら、その中で今言われたような、住むとか観光とか、そういったカテゴリーの中でどういった事業ができるのか、どういった周辺広域の中で連携が組めるのかというのを見ていく、そして取り組んでいくということが大事なというふうに思っています。

こういった広域連携については、ある方は、合併ではなくて必要なサービスごとの連携を組む、そういったことがまあ今後の広域連携のあり方としてあるんじゃないかというふうな意見もあります。確かにそういうふうな形で私も思うところであり、今回の動きがそういったところにもつながるのかなと思いますが、繰り返し言っていますように、武雄市としてのメリットを最大限に見ていきながら取り組んでいかれることをお願いいたします。

それでは、次の質問です。

公園整備についてです。

武雄市においては、大きな公園と別に、地域コミュニティの活性化としてコミュニティ広場設置補助金の制度があります。この制度の目的と中身について、その説明とまた、これ

までの実績について答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀企画部長

○古賀企画部長〔登壇〕

コミュニティ広場設置補助金につきましては、地域コミュニティの活性化といたしまして、住民に健全な交流の場を与え、住民の健康を増進することを目的に設置をしており、これにつきましては土地の造成費用、遊具の設置費用などに対しまして、その経費の2分の1の補助を行うもので、限度額を200万円と定めております。

平成25年度に設置いたしましたこの補助金でございますが、平成25年度と26年度につきまして実績はゼロでございます。平成27年度に1件、平成28年度に2件の補助の実績がございます。

○議長（杉原豊喜君）

1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

実績としては平成27年度が1件、平成28年度が2件。実際にこの交付対象は、実施主体は市内の各区ということになっています。

確かに、それぞれの自治区もお金をたくさん持っているわけではないので、幾ら補助金があるとしてもなかなか手が出せない部分もあるかもしれませんが、市長においても地域まわりをしたときに、公園について、その整備については、さまざま望む声を受けられている、実感されているというふうに思っています。

公園といっても、大きな公園から身近な地域の公園、このコミュニティ広場設置補助にかかわるような、そういった小さな公園も、身近な公園もありますが、市長はこの公園ということについてどのようにお考えでしょうか。答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

身近な公園ということだというふうに理解をしておりますけれども、身近なところにある公園というのは子どもたちの遊び場ですとか、地域の皆さんの憩いの場、あるいは交流の場として、地域の魅力というものを高めていくものだというふうに考えております。

まあそういったものの、例えば整備については、すべて行政が整備をして管理をするというのは困難であるというふうに考えております。

したがって、こういったコミュニティ広場の設置補助というのがありましてですね、やはり地域の皆さんが地域の必要性とか魅力を高めていこうと考えられたときに、まあこういった補助金、いわば行政のサポートがありながら地域の力で公園を整備していくと、そう

いったのが身近な公園の整備の基本的な考え方かなと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

私もですね、身近な公園っていうふうになったときには、やはりそこに住む人たちが管理していく、自分たちの公園として草をとったりとか管理していく、そして、それが自分たちの公園としての愛着も高まりますし、やはり利用ということにつながっていく、それが憩いの場にもなっていくのかなというふうに思います。

市長が言われた、すべて行政がというところは難しいという部分は、そうも思いますし、むしろ自分たちで管理していくというふうな形、そういうスタンスでもいいのではないかなというふうに思います。

私が思うところで身近な公園のイメージとしたら、ベビーカーを押してとか、高齢者の方が押し車、シルバーカーを押してでも行ってベンチにちょっと座れる、人がそこに何をすることもなく憩うでもいいですし、ちょっとそこで交流ができる、そういうふうな形であればなというふうに思います。

スライドに出したのは、これは武雄町永島区の子どもクラブと地域の方と、九州電力武雄営業所さんがボランティアで、みんなでベンチをつくって、そして、ペンキ塗装をしたりしたところです。こういうふうにみんなで取り組みながら公園づくりに進めるということもあると思います。

最初のコミュニティ広場設置補助の制度のときに、住民の健康を増進すること、そういったことも地域コミュニティの、コミュニティ広場の部分での目的ということで言われました。公園となったら遊具っていうところもあると思うんですが、さっき言われた住民の健康って考えたときに子どもたちだけじゃなく、例えばこれは大濠公園です。大濠公園には、こういった健康器具がぐるっと周りにあります。ぶら下がり健康器みたいなのか、これは板の角度が上がっていて、この上に立ってふくらはぎを伸ばすっていうものです。私リハビリの職員のときは、膝の関節に痛みがある人には絶対これをお勧めしていたものです。

こういったものは別に道具を買わなくても、工夫次第でどうにでもできるのかなと思うんですが、子どもたちの遊具もなんですが、先ほど言われた健康増進というような形でも、例えばこういったものがちょっとあるだけで、ちょっと行ってぶらさがって体を伸ばしてとか、そういうふうな何か行きたい場にもなるし、そうやって自然と人も集まるような形にもなるのかなというふうに思います。

先ほど質問しましたコミュニティ広場設置補助について、これはあくまでも補助制度であって、公園については住民の方たちのニーズがもちろんあってのことと思うので、もちろん強制するものでもなく、自分たちが必要だと思った場合にそういった動きが出てくるもの

と思います。

ただ、最近地域コミュニティが薄くなっているとかそういうふうな形の中で、せっかくこういった制度もありますので、この制度をどんどん使ってくださいというよりも、改めて地域コミュニティという部分でこの公園というものを考える、そういうきっかけにもなればということで、改めてこのコミュニティ広場設置補助の制度についてお知らせするということもあっていいのではないかと思います、この点についてどのようにお考えでしょうか。答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀企画部長

○古賀企画部長〔登壇〕

この制度につきましては、区が設置する広場の整備事業でございます。したがって、引き続きこの制度等につきまして代表区長会等を通じて周知を図りたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

まあそれぞれの自治区において考えてもらって、もちろん必要だというふうな形になれば、この補助制度についても検討の一つになるというふうなことになってくると思います。

地域コミュニティを考えるきっかけの一つにもなってもらえたらというふうに思います。それでは、次の質問にいきます。

次は保養村についてです。

保養村については日ごろ保養村会とか、また保養村協力会の皆さんが管理をされていて、きれいに整備されています。最近は特にきれいになったねというふうな声を私もよく聞きます。こうした協力会の皆さんたちの管理、整備のおかげだというふうに思っております。

画像は、保養村のボート乗り場です。この管理運営をされている専任さんからもお話を伺ったところ、ことしのゴールデンウィークは天気がよかったというのもあるかもしれませんが、過去最高に忙しかったと。今回のゴールデンウィークのときだけでなく、普段でも日曜日とか、お昼御飯を食べるすきもないぐらいに忙しいと、お客さん対応で忙しいこともある、そういうふうなことも伺っております。

まあ、そこで質問です。この保養村のボートについて、その乗船の実績について答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

千賀営業部長

○千賀営業部長〔登壇〕

まずお答えします前に、先ほどもございましたように、この保養村については保養村協力会、あるいは保養村会の皆様方に御協力いただいておりますことを、この場を借りてまず御礼申し上げたいと思います。

モニターをお願いします。(モニター使用) このモニターでございますが、保養村におけます白鳥ボートと手漕ぎボートの、合わせたところの利用者数の推移でございます。

一旦、平成 23 年度に落ち込んでおりますが、その後 24 年度、25 年度ということで増加しております。26 年度と 27 年度につきましては、宇宙科学館のリニューアル、あるいは池ノ内湖の池干しというのが原因と思われるが、若干落ちております。

ただ平成 28 年度におきましては、ここ 11 年ぐらいでは最高の 1 万 6,379 名の方に御利用いただいているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

今グラフでもありましたように、まあ 28 年度は過去最高の実績があるということです。専任さんが言われていたところの裏づけでもあるかと思えます。

このスライドに出したのは池ではなくて陸に、丘に上がった白鳥ボートです。これは部品の不具合があって修理不可能ということで上がっています。この部品のメーカー自体が現在ないということで、その部品自体を交換することもできないということで、こういうふうな形になっております。もちろん新しいボートも 4 艘入れて、過去入っているところであります。

これは先ほどの白鳥ボート、ペダル踏むところがありますが、それがぼきっと折れたということです。

この白鳥ボート自体、一番最初からいいますと 20 年ぐらい、古いタイプはそれぐらいたっていると思いますが、こういうふうな老朽化による劣化、そういったことも出てきております。先ほどの 3 艘、こういうふうな形で使えなくなってしまっているケースもあります。

現在 11 艘あります。4 艘が新しいものです。7 艘は当初からの古いものですが、今後不具合がどんどん出てくれば、新しいものを入れられない限りどんどん台数は減っていくというふうな形になります。

これ以外にも、ボート乗り場の浮き栈橋のところですが、ここゴムシートめくったところで鉄板が打ち込んであります。これ各浮き栈橋のつなぎ、ジョイントの部分の故障等もありまして、こういうふうな形で鉄板でつなぎとめています。それをゴムシートで覆いかぶして、こういうのがあちこちにあって、もうつぎはぎ状態であります。

これは手前にポールが立って、チェーンがあって安全対策がしてありますが、実は昔はですね、この先もずっとポールが立ってチェーンがしてありました。その証拠写真も、もち

ろんあります。現在はもう、ポールも朽ち果ててっていうふうな形の状況であります。

こういうふうな形でさまざまな面で老朽化というところが出ていますが、今後こうした老朽化について、コスト面、どのように考えられているでしょうか。答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

千賀営業部長

○千賀営業部長〔登壇〕

まず、白鳥ボートでございますが、平成 26 年度と 27 年度にそれぞれ 2 隻更新をしております。4 隻更新で約 400 万円、あわせて要しております。

それと浮き棧橋の件でございますが、これにつきましては平成 14 年に豊田合成九州様、現豊田合成佐賀工場様ですが、そこから寄贈を受けておりますが、その全体的な修繕には 400 万円ぐらいかかるというふうに見込んでおります。

今後の更新あるいは修繕の時期については、設備の状況等を注視しながら検討してまいりたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

設備の更新に関しては今後状況を見てということですが、導入するにしてももちろんお金もかかりますし、修繕するにもお金がかかります。

そこで、先ほどから言っていますボートです。ローボート、ペダルボート——ペダルボートが白鳥ボートですね。30 分で 450 円というふうな形であります。この利用料金の設定は、いつごろからこの設定でしょうか。答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

千賀営業部長

○千賀営業部長〔登壇〕

観光ボートの使用料金につきましては、武雄市観光ボート場設置条例において規定をしております。

なお、現在の使用料金につきましては、平成 9 年 4 月から現行料金で利用料金をいただいているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

平成 9 年 4 月からということは、20 年間この料金設定ということですね。

スライドに出しましたのは、武雄市近辺で同じようなタイプのペダルボートの利用料金

です。(発言する者あり) はい、全国で見たらもっと高いところが多いです。ほとんどです。大体 1,000 円以上みたいな感じですが。長崎の伊佐ノ浦公園で 540 円というのがありますが、諫早の干拓の里が 1 人 350 円なので、2 人乗ったら 650 円というふうなところですね。そこで保養村が 450 円と。全国的に見ても極端に価格設定は低いかなど。

サービス面で言えばもちろん安いにこしたことはないです。ないんですが、先ほどから備品の老朽化とか、ボートの不具合のこととかさまざまある中で、またこういった近隣地の利用状況等も踏まえたときに、価格については一度見直しを検討することも必要ではないだろうかというふうに思います。

というのが、保養村で収入があるのがこのボートだけですよね。ほかの部分で外部から収入を得るというふうなところはないです。ボートが唯一収入を得るところだと思いますが、こうした形で、もちろんボートに乗る人にかかわりますので、受益者負担というふうな形にもつながってくると思います。

このボートの料金についてはこれまでも、先ほどから言っています協力会の皆さんとかも、備品の不具合のこととかその修繕のことについてもいろいろ話が上がっていますので、一度価格設定について見直しをすることも必要ではないかと思いますが、この点について答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

現在、ことし 3 月に行政改革プランを策定をいたしました。これは平成 32 年度までの計画であります。

その中でもこういった手数料の見直しというのは、項目であげておりますので、その中で今回のその保養村のボートの料金、これについても見直しの検討を行いたいと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

行政改革プランの中で、32 年度までの期間で手数料の見直しを行っていくということですので。

先ほどから言っていますように、これまでもいろいろコスト面については議論も出ていますので、32 年度というか、32 年度までにとというような中で、やはり具体的にしっかり取り組んでいただきたいなというふうに思いますので、その点よろしくお願いいたします。

それでは最後の質問にいきます。

スポーツ政策についてです。

スポーツについては、健全育成や健康づくりから、クラブ活動などの競技スポーツなど幅広くあります。また、もちろん施設についてもからんでくるところであります。これまでもスポーツをされている方々から、スポーツについてのいろいろな意見があります。

そこでまず質問ですが、先ほど述べましたようにスポーツといいましても幅広くありはしますが、中でも競技スポーツを中心に考えたときに、武雄市が考えるスポーツ政策、これはどのようにあるでしょうか。答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

競技スポーツは、よく言われますとおり、おのれの限界に挑むとか、達成感とか、あとは見る側からするとやっぱり感動を覚えます。私自身も、表敬訪問にたくさん来られますけれども、そこで会って話をすると、私が激励をするというよりは、私が逆に元気をもらうというようなことが、たびたびあるなと思っております。

市民体育大会の開催とか、あとは、それ以外にもこういった競技スポーツのスポーツ教室、そういったものの開催の御案内ですとか、あるいは出場の補助とか幅広い面で競技スポーツの振興の支援を今後も行っていきたいと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

幅広い面で、競技スポーツの振興に取り組んでいきたいというようなことで伺いました。

スライドは、武雄市のまち・ひと・しごと創生総合戦略であるスター戦略からの抜粋です。その中の基本目標4、来てもらう・住んでもらうまちをつくるの中に、具体的施策としてスポーツ大会等の誘致があります。スポーツについては、これまでも上田議員さんも繰り返し行われていますが、この誘致についても昨年質問をされています。

今回、改めて私からも質問をしたいと思うんですが、このスター戦略に上がっているスポーツ大会等の誘致活動。改めて誘致活動の目的、そして、誘致活動の実績について答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

末藤こども教育部理事

○末藤こども教育部理事〔登壇〕

スター戦略での誘致活動の目的でございますけれども、各種スポーツを通しまして、コンベンション、人が多く集まる大会を誘致し、市外からたくさんの皆さんやアスリートが武雄市を訪れる。地元で開催することによるスポーツの普及、交流人口の増加、市の情報の発信、これらにより地域の活性化につなげることを目的としております。

誘致の実績でございますけれど、28年度に武雄フィットネス祭りを実施しました。これは全国大会の規模のものです。参加が200人いらっしゃいました。続きまして、2016武雄温泉リレーマラソン。これには1,700人の方が参加されております。次に、武雄温泉九州古希軟式野球交流大会、100人の参加がございました。このほか競技種目連盟に6件を開催していただいております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

誘致活動をすることによって人が多く集まる大会を誘致し、地元で開催することによって、スポーツの普及等々によって、地域の活性を図ることがねらいであるというふうなことで話がありました。

28年度としてフィットネス、リレーマラソン、古希軟式野球等があるということでしたが、これらは誘致活動が行われたということで判断してよろしいのでしょうか。答弁お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

末藤こども教育部理事

○末藤こども教育部理事〔登壇〕

スポーツの団体の方とか、いろんな方とのつながりがあるかと思えますけど、それらによって誘致が成功した。その結果、武雄で開催されたというものになっております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

今言われたように、いろんな関係者のつながりがあって大会につながったということがあるということでした。もちろん、大会を行うだけの施設はどうかという声もあります。

それでは実際、武雄市内でスポーツについての大会で、市内体育施設における大会の実施状況について答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

末藤こども教育部理事

○末藤こども教育部理事〔登壇〕

スライドを。（モニター使用）まず主要施設であります白岩体育館、白岩競技場、白岩球場の平成28年度の状況を申し上げます。モニターをごらんください。

まず、白岩体育館でございます。バレーボール、ミニバレーボール、ジュニアバレーボ

ール等が開催されております。まず左上のほうですけれど、バレーボールについては開催延べ日数が、九州大会が2、県レベルの大会が3、市のレベルの大会が2ということで、ちょっと合計が書いてありませんけれど開催延べ日数は7日。参加人員は下にありますとおり。260、170、90ということになっております。このバレーボール大会については、九州実業団大会が開催されております。

ちょっと下のほうにいきますけれど、剣道については九州レベルの大会が1、県レベルの大会が2ということで、参加された方が合わせて2,600人いらっしゃいます。このように、一番最後の右下のほうになりますけど大会の規模、全国、九州、県、市ということで14種目、延べ日数が45日、参加人員9,150人となっております。

次に、白岩競技場でございます。サッカー、グラウンドゴルフ、ラグビー等が実施されておまして、ここにおきましては、最終的に合計ですけれど、県レベルと市のレベルの大会があつて、25日間あつております。参加人員につきましては5,610人となっております。

そして一番下の段、白岩球場ですけれど、これは野球大会になりますけれど、ここでは九州大会が8、県の大会が2、市の大会が23ということになっております。開催延べ日数で34日、参加人員3,885人となっております。

このほか、北方、山内のスポーツ施設でも実施されております。ちょっと申し上げますと、北方スポーツセンター、北方運動公園グラウンド、サンスポ北方等で、ジュニアバレーとかミニバレー、野球とかも開催されております。ここでは開催の回数ですけれども、84回となっております。

次に、山内中央公園内のスポーツセンター及びグラウンドでは、剣道とかバレー、少年サッカーなどが実施されております。65回となっております。合わせて149回の大会が開催されております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

こういうふうな形で、白岩そして北方、山内というようなことで答弁いただきました。

これらを、もちろん数字としても整理して把握するというのも必要だと思いますし、実際に大会をされていてどうなのか、使い勝手もどうなのかとかそういったところも、現地大会関係者に聞くことももちろん必要だと思います。

例えば——ちょっとスライドを1個戻してもらっていいですか。はい。——例えば白岩体育館を見たときにですね、バレーとか剣道、卓球、バドミントン等の大会があつたということですが、先ほどの答弁の中も含めて、バスケットボールというような言葉は全然出てこなかったなというふうに思うところであります。

バスケット関係者からもちょっと話を伺ったこともあるんですが、白岩に関してはリングがないというふうなことで大会ができない、そもそもできないというふうなことも話を伺っています。中学校の体育館を使ってされているということですが、学校の体育館だとしても部活の関係等もあって、なかなか大会開催というのは難しい面もあるというようなことであります。

それでは――スライドを戻してもらっていいです。――武雄市で大会を開催したとき、主催者への助成である武雄市コンベンション開催助成金制度がありますが、その実績についても答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

末藤こども教育部理事

○末藤こども教育部理事〔登壇〕

コンベンションの開催助成の実績でございますけれど、平成 28 年度につきましてはソフトボール大会など 36 件、延べ 2,592 人に対しまして、153 万 2,700 円の助成を行っております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

主催されたところについて 50 泊以上に関して補助制度があると。こういった大会等の誘致活動は、県においても佐賀県スポーツコミッションというふうな形であっております。

佐賀県スポーツコミッションのホームページを見てみますと、県内の施設紹介があつてますが、武雄市分では保養村のアイススポーツのところにあります FOOT-i、フットサル場のみが紹介してあります。

スター戦略にも誘致活動について、いろんな関係機関と連携しながら取り組むことが効果的と考えますが、今言いました佐賀県スポーツコミッション、ここと武雄市の連携の状況はどのようにあるでしょうか。

また、そのページにも紹介してあるフットサル場、ここに絡んだ誘致活動というのは実際武雄市としてどのように行われたでしょうか。答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

末藤こども教育部理事

○末藤こども教育部理事〔登壇〕

県スポーツコミッションとの連携につきまして、コミッションというのがプロ、実業団チーム、海外のナショナルチームの情報を収集されております。それを共有しまして、武雄市にも誘致につなげるような活動でございまして、連携して行っているところでございます。

実績についてはまだない状況でございますけれど、一つあったんですけれど中止になったということになります。今後は誘致につながるよう、期待しているところでございます。

次に、アイススポーツ様のフットサル場を絡めた誘致活動につきましては、現在アイススポーツ様独自で月2回から3回、大会を開催されております。市内外から多くの皆さんが参加されていると聞き及んでおります。

大会、合宿等の誘致について今後、アイススポーツ様と情報交換を図りながら、その可能性を探っていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

連携をとっているということです。連携を、やはりせっかくこういう、県の部署もありますし、市町の部分に関して紹介もしてあったりしますので、せっかくそういうところがあるので、やはり連携を図ったほうがいいというふうに思います。それがどれぐらいできているのかというところがあるかと思いますが、積極的にしていただきたいなと思いますと同時に、連携を図るにしても、やはり実際の現場の状況というのを知った上で連携も図っていかないと、いい連携、意味ある連携にはならないというふうに思いますので、先ほどから大会の状況とか、現場の声をというようなことも言いましたが、そういったところもしっかり情報を集めて、武雄市としてのスポーツ政策というのを、冒頭言いましたが武雄市としてどういうふうに取り組んでいくか、というのをまとめて整理して取り組んでいって、より効果的な誘致活動につなげることが必要というふうに思いますので、そういう戦略をもっていっていただきたいなというふうに思います。

ただ、大会開催に関しては、スポーツ施設、どうしても施設の問題もあります。施設に関しては老朽化の問題もあって、市民の多くの関心ではあるんですが、アセットマネジメントにおいて、スポーツ施設を含めた市内の公共施設整備を今後どのような計画で行うか、検討がなされているところだと思います。

改めてこの施設整備計画について、現状どのように検討が行われているか、答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

間もなく正午になりますが、一般質問を続けます。

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

ことし3月に公共施設等総合整備計画、いわゆるアセットマネジメントを策定し、基本方針を公表したところでございます。

計画の大きな柱として、現在保有する施設の総面積を 40 年間で 32%削減するといった目標が設定されております。まず向こう 10 年間で総面積の 8 %を削減するといった計画内容になっております。この数値目標をもとに、ことしから個別計画を策定していくこととなりますけれども、例えばいつまでにどの施設を廃止するといった個別案を短期間でつくり上げることは困難でございます。

アセットマネジメントで示された手法に従って、これから整理をしてまいるところでございますけれども、住民参加の協議方式で施設に新しい価値を見出しながら、再編計画を策定されている先進他団体の例もございます。そういったことで、基本的な策定方針といたしましては、まず第 1 期の 10 年間で 8 %の削減を目標として現状分析を深め、議員の皆様や地域利用者の皆様の御意見をもとに一定の年数、2、3年をかけてですね、これを議論し具体化していきたいと考えております。

ただし、安全面については優先的に対応すべきでありますし、また、例えば大型のスポーツ施設群など、種別や財源の関係によっては早い時期に計画をたてるべきケースも当然あり得るという認識を持っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

今言われたように、安全面を考慮しながらというところで、ただ計画を個別にしっかり組んでいくにはまだ時間もかかると。

例えば体育館についても、文化会館とか白岩体育館についても、平成 26 年 9 月議会で吉川議員さんの質問に対してですね、文化スポーツ施設について今後 10 年維持する場合は、ランニングコストとして約 24 億円かかると。そういった答弁もあっています。

更新年も近づいていますがいずれ、やはり見直しはしないといけないというふうに思いますので、ただ建物だけのアセットという部分はあるんですが、その裏にですね、先ほどから繰り返し言っている、現場の状況というのを整理してまとめて把握していく、そこも同時に行っていくことが必要というふうに思いますので、お願いいたします。

最後になりますが、ふるさと納税のメニューが、こういった武雄市においた A から H まで、各メニューがあります。

先ほどから言っていますように、スポーツ施設については市民ニーズも高くあります。例えばこのメニューの中に具体的に、例えば新体育館建設というふうな形でメニューとして盛り込む、そういったこともあっていいのかなというふうに思います。

もちろん、ふるさと納税の部分を全部建設費にということは無理だと思いますし、できないと思いますが、例えば福井県勝山市では、新体育館建設、ふるさと納税で新体育館の建設をということで、具体的にメニューに入れられたところもあります。もちろんこれだけじゃ

なくて、基金もつくられて、体育館建設に向けられたというところもあります。

3月議会でもちょっと申したんですが、市民ニーズが高いということは、それに合致した政策を取り組むようにすれば、協力者もその分ふえるんじゃないかなと。市民の人も一緒になって、体育館建設のメニューのあるけんが、市外の人を、武雄の応援してねというふうな形で、どんどん協力してもらえないかなというふうに思いますが、このメニューへの導入について答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

個別に、具体的にメニューを提示することは現段階では考えておりませんが、スポーツ、文化、このあたりは関心が高いものでもありますので、そこについてこのメニューが今7つあるんですかね。そこもスポーツ、文化を含めるところも含めて、一度このメニューの見直しは行っていきたいと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

スポーツに関してはですね、さまざまな面で関係してくると思います。

繰り返しになりますが、総合的に武雄市としてのスポーツ政策をもっていけるように、今後よろしくをお願いいたします。

これで私の一般質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で1番豊村議員の質問を終了させていただきます。

ここで議事の都合上、午後1時20分まで休憩いたします。

休	憩	12時04分
再	開	13時23分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、4番山口等議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんこんにちは。議長より登壇の許可をいただきましたので、ただいまから山口等の一般質問をさせていただきます。

今回は大きな項目で2つ上げております。

1番目に交通安全対策について。その中で交通事故防止について、2つ目に「ゾーン

30」について。また、2番目に子育て支援の放課後児童クラブについて質問をさせていただきます。

では、早速質問に移らせていただきます。

初めに、交通安全対策についての中の交通事故防止についてであります。

皆さんも御存じのとおり、佐賀県は人口10万人当たり、交通事故の発生率が全国ワーストでございます。しかも、これが5年連続。平成26年データによりますと、佐賀県の事故発生率、事故件数を車の保有台数で割った値なんですけれども、佐賀県が1.83%、次いで2位が福岡県で1.66%。ちなみに、一番事故が少ない県、皆さんどこだと思いますか。鳥取の0.35%。つまり、佐賀県は鳥取県の5倍以上が、年間ですね、5倍以上の事故が発生しているような計算になります。

そこで質問に入りますが、この武雄市において、昨年28年度中の交通事故の発生状況はどのようになっているのか、年齢別、事故発生の時間帯、また、原因等についてお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

（モニター使用）交通事故の発生状況についてでございますが、モニターをごらんいただきたいと思っております。

武雄市内における平成28年の交通事故の状況についてですが、紹介する数値は武雄警察署交通課発表のものでございます。

まず、人身事故の発生件数でございますけれども、全県下、武雄市内いずれも前年度に比べて減少しておりますけれども、県全体で7,783件、うち武雄市で439件発生しております。先ほど御紹介いただきましたように、佐賀県は5年連続全国ワーストということでございます。

次に、人身事故439件の年齢別の割合でございます。65歳以上20.9%、それから40歳代18.6%、19歳から24歳の若者16.4%ということで、28年は、30歳代にかわって40歳代が第2位に急増したといった特徴がございます。

続きまして、時間帯別の割合でございます。1位は16時から17時台15.5%、2番目、3番目もごらんとおり、朝夕の通勤、通学の時間帯が多いということでございます。

続きまして、原因別でございます。前方不注視26.7%、それから動静不注視22.3%で、事故の大半は脇見などの運転者のちょっとした油断が原因ということになっております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

ありがとうございます。

武雄市内でも昨年、439件の事故があったということでございますが、年齢別に40代の事故が非常に多いというのがちょっと私驚いたところでございます。

そんな中での、時間帯にしても、通勤時、また帰宅時が一番多いようでございますが、では、武雄市内でですね、どういったところで一番事故が発生しているのか。どこの場所で発生しているのかお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

（モニター使用）モニターお願いいたします。

モニターに示しておりますのが交通事故の多発箇所でございます。国道34号線沿いの主要な交差点での事故が多うございます。

平成28年の発生件数で上位の箇所はまず、物産館前交差点5件、それから、白岩公園入口交差点4件、これはアクロスウィルさん、セブンイレブン武雄バイパス店さんがある交差点でございます。

それから、鳴瀬分道交差点4件、それから第三御船橋交差点4件となっておりますが、これは武雄高校前交差点から西へ向かって1つ目の信号機のある交差点でございます。

前年、27年の発生状況を見ましても、白岩球場入口交差点や、下西山交差点、北方中学校入口交差点など、国道沿いでの交通事故の多発が目立っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

（執行部のモニター）ちょっとこのまましとってください。

ほとんどが国道沿いと言いますか、鳴瀬分道だけが国道からちょっと入ったとこなんですけども、こういった事故防止のいろんな取り組みも武雄市として考えられると思いますけども、今、どのような取り組みをなされておるのかお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

交通安全対策の取り組みでございますけれども、交通安全県民運動等に関するキャンペーン活動を初め、高齢者の交通事故防止、それから、保育園児や保護者を対象とした交通安全教室、各種教室や街頭運動を多数展開しているところでございます。

それから、出前講座に関しましては、昨年度の実績で全51回、3,558名の方に受講をい

ただいている状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

ちょっと切りかえてもらってよろしいですか。（モニター切替）

34号線沿いの事故が多いということで、いろんな取り組みを武雄市でされておりますけども、なかなかこの交通安全ということに関して、皆さんもうなれっこといいますか、もう馴染みになってしまって、なかなか関心度が薄いような気もいたします。

それで、私からの提案なんですけども、今、先ほど言われた34号線に非常に事故が多いということで、今回、子どもたちと一緒に事故防止の大作戦というのを実施したらどうかと思います。

内容的には、34号線の34、そしてゼロ作戦の0、この語呂合わせで340人体制の規模で交通事故防止の大作戦、これをですね、いろんな関係機関との協議も必要が出てくるかと思うんですけども、ぜひ違った形でドライバーに安全運転を呼びかけ、こういったイベントをやったらどうかと、私自身考えるわけなんですけども、これについて担当部としてどうお考えなのかお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

市といたしましても、地域と一体となった交通安全運動の新たな取り組みとして、ぜひ、実施に向けて協議をしてみたいと思います。

○4番（山口 等君）〔登壇〕

340人規模となりますとですね、武雄町内には御船が丘小学校と武雄小学校がございます。そういった5、6年生のお力を借りるとか、また、警察もなんですけども、婦人会、老人会、私が所属していますけども、交通安全協会、そういったところと働きかけをしまして、ぜひ実現に向けてやっていきたいと思います。

子どもたちも、小学5、6年生になると11歳、12歳ですかね、あと6、7年もすれば実際ハンドルを握るような立場になるわけなんですよね。そして、子どもたちが家族のほうに帰ったときに、いろんな形でお父さん、お母さん、また、おじいちゃん、おばあちゃんにですね、いろんな安全運転の呼びかけもできるかと思うんですよ。

そういったことの取り組みを市長、どのように考えられるか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

まず、山口等議員さんも毎日、横断歩道のところで立っていただいておりますし、市民の皆さんには常日ごろ立哨していただいております、そのことにつきまして感謝申し上げます。

子どもたちも一緒にやるということは、私もいいアイデアだと思っています。子どもたち自身の学びにもつながりますし、やはりこう、子どもに見られると大人も、どうしてもやっぱり、普段以上にしっかりせんばというふうに思ってしまう。そういう意味で、より注意喚起ができるという効果の面でもですね、私もいいと思っております。

この 34 号線沿いということで、武雄町だけではなくて、それこそ北方町とか、そういった武雄町以外の部分のまちも含まれますので、これやり方はちょっといろいろ協議をする必要あると思いますけど、子どもたちも一緒になった交通事故の防止、ここについてはぜひ関係機関との協議を進めたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4 番山口等議員

○4 番（山口 等君）〔登壇〕

ありがとうございます。

本当、こんな形でやって、いろんな形でメディアのほうに情報発信して、県民の方に幅広く、子どもたちと一緒に頑張ってこういうふうな取り組み、呼びかけをしていることを、皆さんに情報提供していったらいいのかなと私自身思っております。

ぜひ成功させていきたいと思っております。

では、次の 2 つ目の「ゾーン 30」についてでございます。

皆さん、ゾーン 30 という言葉は御存じでしょうか。馴染みのない方も、またおられるかわかりません。ここに書いてありますけども、区域を定めて、最高速度を時速 30 キロメートルという制限を設けまして、必要に応じて安全対策を行い、通行の抑制を図る生活道路の安全対策です。

この表を見てください。これは、青色が道路幅員が 5.5 メートル以上のところ、つまりセンターラインがあるような道路です。それで、赤がそれ以下の、5.5 メートル未満の道路での交通事故の件数ですね。発生件数をちょっと 10 年間、平成 16 年から 26 年までのデータなんですけども、幅広い 5.5 メートル以上のところの道路の事故の発生件数は、10 年前の平成 16 年と平成 26 年と比較した場合に、大体平成 16 年が 72 万 3,000 件、それが 10 年後の平成 26 年には 41 万 1,000 件ということで、43%ほど事故が減っております。

しかし、それに反して、5.5 メートル未満の道路では平成 16 年が 20 万 8,000 件の発生件数が、10 年後 13 万 7,000 件ということで、33%ほどしか減っておりません。そんな中で、生活道路と言われます道路が狭いところの事故が、なかなか減らないというのが実状でございます。

そんな中で、また、何で時速 30 キロメートルという数字になってくるかといいますと、自動車の速度と歩行者の致死率ですね、人が亡くなる率なんですけども、時速 30 キロメートルを超えれば致死率が高くなるというデータが出ております。

こういったことで、ぜひゾーン 30 というところを、エリアを設けてやっていきたいんですけども、武雄小学校、中学校が道路の周辺、生活道路の周辺になるんですけども、子どもたちを巻き込んだ交通事故の発生状況はどうか、まずお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

市が把握しております事故の発生件数でございますけれども、武雄小学校周辺の子どもの関する交通事故につきましては、過去 5 年間、平成 24 年度から現在までですが、子どもが被害に遭った交通事故は平成 27 年 11 月に 1 件でございます。

○議長（杉原豊喜君）

4 番山口等議員

○4 番（山口 等君）〔登壇〕

平成 27 年に 5 年間で 1 件ということで、私自身もちょっと調査をしてみました。そして、ことし 1 月 1 日から 6 月 3 日、この約 5 カ月間で、一般の方の人身事故、また、物損事故が結構多発しとるんですね。

この赤印が人身事故です。これが 4 件、これが約 5 カ月間で、大体周辺部で 4 件ほど起きております。

また、物損事故も 16 件、結構大きな事故に至らなかった事故も含めて、ちょこちょこした物損事故が起こっているのが実情なんですよ。

そういったところで、ゾーン 30 の範囲を指定して、武雄小学校周辺の、案なんですけども、ゾーン 30 の案です。こういった指定をして、取り組んでいくというのは、どういうことを思われるかどうかお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

武雄小学校周辺の道路につきましては、狭くて見通しの利かない道路もたくさんあるというふうな認識をしております。

ゾーン 30 については、佐賀県公安委員会の指定になります。指定ゾーン内におきましては、速度制限などの交通規制がかかりますので、これは地元の方々の御理解と、その同意が不可欠でございます。

ゾーン 30 の指定に向けての取り組みにつきましては、周辺の区長さんや関係者の方々と

十分協議をしながら、関係機関が一体となった推進対策が必要になってくると思います。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

確かに地元の了解というか、承諾は必要なんです。関係機関と十分連携をとっていただいて、進めてほしいと思うんですが、市との管理者として、道路管理者として、このような形で対応、こういった形で取り組まれていく予定なのか、お聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

ゾーン 30 の導入に関しましては、地元合意を形成した後、武雄市と警察で協議して、公安委員会が指定を行うこととなります。

その後、規制に関する表示等は警察で、また、路側帯の拡幅等については道路管理者が行うことになるため、ラインの引き直しや、路側帯へのカラー塗装等が考えられます。

まずは、関係機関との協議を進めたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

このゾーン 30 の指定になると、前回の議会でも私ちょっと質問させていただきましたけれども、このゾーン 30 に先駆けて、路肩部分に着色する舗装、これでもって子どもたちの安全の確保、歩道の確保といいますか、そういったことを今回、試験的に施工していただくようになりました。

それで、こういうことも含めて、市道にこのゾーン 30 の明示、路面標示、このような標示になりますけども、そして、こういった呼びかけ。こういったことをどんどんしていくことによって、皆さんの注意を促す。こういったことをしていけば、皆さんが安全運転するんじゃないだろうかと思います。

それで今、先ほど市長も言っていたいただきましたけども、私も毎朝、子どもたちの交通誘導をさせていただいております。中には——もう随分前のことなんですけども、こういったこともありました。子どもたちが横断歩道の前に立ったときに、旗でもってこう制御するんですけども、先頭の車はとまったんですね。ところがその後続車が、ちょっと距離があったんでしょう。子どもたちが渡ろうとしたときに、反対側の車線を行ってしまったんですね。このとき私は、横断歩道上で子どもがはねられたと思って、声を出しました。はねられたって。本当にこういったマナーが悪いドライバーが最近特に見受けられるんですよ。

ということで、こういった標示をさせていただいて、費用はかかるかわかりません。また

公安委員会の規制も含めて、しっかりとやっていただいて、とにかく事故をなくすような努力をしてほしいと思いますが、市長そのあたりどう思われるか、もう一つ市長のお気持ちをお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

横断歩道で歩行者が待っているときには車はとまらなければいけないというところは、私自身が歩行者であって、まあなかなかとまってくれないこともあったり、とまってくれることもあったりするので、特にここについては今後、徹底が必要だと思っておりますし、これをごらんいただいている方も、もう既にマナーを守っていただいているとは思いますが、周りにもぜひそこはお伝えいただければというふうに思っております。

このゾーン 30 については、私もこの周辺の危険性は認識をしておりますし、安全対策を求める声も保護者の方等からも直接聞いたりしております。

先ほど、部長が申し上げましたとおり、あくまでもこれは地元の同意が不可欠である、協力理解が不可欠であるというものでございます。

ただ、こう、だれかが働きかけていかなければならないということですので、提案として、ぜひ市のほうからそういった関係の方に話を、協議を持ちかけたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4 番山口等議員

○4 番（山口 等君）〔登壇〕

ありがとうございます。

本当にこの交通事故というのは、ゼロにはなかなか厳しいと思いますけども、子どもたち、また老人、高齢者の方を含めて、皆さんで守っていく。そういうふうな本当にドライバーのマナー、これが一番交通事故を防ぐためのことなのかと思います。特に朝、こう立っておると、携帯電話はもちろんなんですけれども、食事をしながらとか、あくびしながらとか、いろんな人がおられます。

本当にこの人たちが安全運転の気持ちになっておられるのかどうか、そのあたりを本当にもう一度、皆さんに示していきたいと思っております。本当に市としても、ぜひ強力に進めてほしいと思います。

では、次の質問に移らせていただきます。

午前中も、放課後児童クラブの武雄小学校の部分が出ておりましたけれども、私はこのハード面についてちょっと質問をさせていただきます。

武雄小学校の場合、旧保育所を今、武雄児童クラブとして使われております。もともと

が、保育所であったために、このプールとか、また、このグラウンドですね、これはもともと子どもたちが、園児が運動場として使ったとこなんですけれども、ここが今、駐車場として使われております。

そういったところで、この出入り口が、もともとが車両の出入り口じゃないものですから、非常に狭いと。それでまた、前の道路の幅が3メートルほどしかない市道でございます。そういったことで、送迎時に非常に混雑をします。それでまたここが、時間帯のある、制限がある道路でございますので、整備が必要じゃないかなと思ったところでございます。

坂道といいますか、階段のところを幾らか撤去してでも離合場所を設けるとか、こういったことで、ぜひ整備をお願いしたいと思っておりますけど、このあたりの計画はあるのかどうか、まずお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾こども教育部長

○松尾こども教育部長〔登壇〕

児童の安全確保のために改修は必要だというふうに考えております。

これまでもトイレ、あるいは駐車場として利用している旧園庭の整地、段差の解消などの整備を行ってきております。

ただいま御指摘のありました駐車場入口付近の改修等、具体的には計画持っていませんけれども、今後、検討を行って必要に応じた安全対策を講じていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

考えていきたいということなんですけど、非常に今はですね、夕方とかの混雑で、事故等が発生するような状況でございます。

そんな中で、この今の保育所も昭和48年からもう44年ほどたつわけなんですけども、そういったことで老朽化もしております。

平成27年9月議会でも、この改築についての質問をさせていただきました。そのときの答弁がですね、アセットマネジメントの中で具体的に検討していくという答弁でございましたが、その後の進捗状況についてお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾こども教育部長

○松尾こども教育部長〔登壇〕

放課後児童クラブの教室の今後の整備方針ということになりますけれども、ことし3月に策定をいたしましたアセットマネジメントの基本方針に基づいて、今年度から個別計画を

作成していくということになるかと思えます。

放課後児童クラブ教室の基本方針ですが、これにつきましては、学校や地域と連携を深め、学校施設やその他の施設の利用を検討する、ということを示しておりますので、今後、そういった他の施設等の利用も視野に入れて検討していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

この施設も先ほど言いましたように、昭和48年2月に完成しているようでございます。

そんな中で、耐震的なことも含めて、もともと武雄保育所が耐震構造とかが不十分ということも含めまして、新たなところに改築、移転改築ですね、されております。そんな中で、ひび割れ等も実際、現状を見てみますと、多発しているような状況でございます。

総合的に計画をぜひ立てていただいて、いつごろまでに基本方針を決めるとか、そういった具体的な進め方を示してほしいんですけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾こども教育部長

○松尾こども教育部長〔登壇〕

具体的な進め方ですけども、先ほど言いましたように基本方針に基づいて、今後、現施設の耐震改修を行った場合の経費とか、将来的な児童数の推移、そして、自治公民館などの周辺施設の利用の可能性も含めて総合的に検討し、2年から3年をめどに策定をしていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

2年から3年の間に計画を立てていくというようなことなんですけども、今の施設の近隣に自治公民館がございます。そういったことで、先ほど言われましたけれども、ほかの施設も含めたところで検討するというようなことで、私自身ですね、こういった施設も考えられるというのがあるんじゃないかと思うわけなんです。

というのが、これから先、花まる学習も進んでいくわけなんですけど、地域と学校がいろんな形で連携をとるといったことが必要になると思います。そんな中で、こういったほかの施設を活用しながら子どもたちが過ごすというのも、一つ意味があるんじゃないかなと思っております。

それで、今年度ですかね、御船が丘の児童クラブの施設が増築するような計画があると聞いております。そんな中で、先ほど言われました他の施設といいますか、そういった施設も実際検討されたのかどうか、もしされているのであれば、どういった施設を検討されたの

かお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

松尾こども教育部長

○松尾こども教育部長〔登壇〕

御船児童クラブの増築に際してということですが、この増築という方針に際しましても、学校内の施設、あるいは文化会館や勤労青少年ホームなどの周辺の公共施設、それと自治公民館等の利用の検討も行っております。

いずれの施設においても、児童クラブとしての必要面積、あるいは運営時間、運営日数等の確保ができなかったこと、また、行き帰りの児童の安全確保が難しいということで、増築という方針を決定したところであります。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

いろいろ検討はされているような状況でございますけれども、このようなほかの施設と言いますか、こういったことを活用するということ自体を市長はどのようにお考えなのかをお聞きいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

御船が丘小学校の場合も検討はされましたけれども、私としては、今あるところを改修するとかですね、そういったものに限らず幅広く検討していくべきだと思っております。

先ほど、八並のコミュニティーセンターですか、例えば武雄小学校であれば、そこは近くにあると。まあ、自治公民館の活用というようなお話もされましたけれども、私もそれは一つの案だと思っております、今、支援員の皆さんに非常に頑張ってもらっております。その上に、例えば放課後子ども教室とか、いわばこう、地域の皆さんとの連携というのが、だんだん、だんだんと、進んできています。

そういう意味で、先ほど花まる、お話しされましたけれども、これからは地域の連携というところがさらに深くなっていくという点では、一つの場所として当然、その地域の利用状況とか、御意見を聞かなければならないですけども、例えばそういった自治公民館は、私是一个の案として有力な案であろうというふうに思っております。

そういった形で、とにかく今のところに限らず、幅広く地域の方も巻き込みやすいような場所というところを考えていければというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

確かに、子どもたち全員がそういったところで過ごすというのも、非常にいろんな問題があるかと思うんですけれども、限られた学年だけでもそういったところでかかわっていけば、また地域の方と一緒にいろんなことの取り組みも出てくるんじゃないかなと思います。

その地域の公民館のいろいろな事情もあるかと思うんですけれども、そういったことも今後、考えていく必要があるんじゃないかなと思います。

市もいろんな財政も厳しい面がありますけれども、こと、この場所に関しては、耐震とかいろんな問題があります。子どもたちの安全面を含めてありますので、ぜひ総合的な計画を2、3年をめどに立てていくということを言われましたけれども、ぜひ強力的に改築の方向で進めていっていただくように、再度、市長からそのお言葉をお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

今後、アセットマネジメント計画、個別計画の策定が進んでいきますけれども、単に数を減らしましたとか、そういうことではなくて、やっぱりこう、例えば何か施設を、2つを1つにするのであれば、したからこそ新しいものが生まれたよね、例えば高齢者の方と子どもたちの何か交流が生まれたとか、そういった部分も大事にしていく必要があるというふうに考えております。

まさに、この放課後児童クラブも、地域との連携というところが大事だと思いますので、今、私が申し上げましたような考え方で進めてまいりたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

ありがとうございます。

この施設も武雄保育所を流用しているような状況なので、先ほど言いました、こういった問題点について、非常に保護者の方から強く要望されているようなところもございます。

そういったことで幾らかの費用は発生しますけれども、ぜひ安全面を含めたところで対応していただきますことをお願いして、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

以上で4番山口等議員の質問を終了させていただきます。

先ほど、16番宮本議員の一般質問の中で、自転車が歩道として区別されているところを通行している写真が示されておりました。

交通ルール上、自転車通行可と明示されていない限り、自転車は車道の左側、路側帯を通行することになっており、写真には標識が写っておらず、放送を見た人が勘違いをされる

可能性があります。議会で示す写真としてはふさわしくないので、今後、十分注意していただくよう申し述べておきます。

また、執行部にも申し伝えておきますけれども、執行部の答弁についても配慮に欠けている部分が見受けられます。議員の方もしっかり勉強して一般質問されているわけですので、冒頭申しましたように、簡潔に、的確に、十分な配慮をした答弁を求めておきます。

以上で本日の日程はすべて終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。どうもお疲れさまでした。

散 会 14時